

第2次雲南市総合計画 振り返り評価結果

< 評価期間：平成27年度～令和5年度 >



雲南市

施 策 体 系

基本構想		後期基本計画	… 目次
基本理念	H27年度～R6年度 まちづくりの将来像(政策)	R2年度～R6年度 施策	
「生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」 「課題先進地」から「課題解決先進地」へ	【重点戦略】 「人口の社会増」への挑戦	定住基盤の整備 … P. 2 人材の育成・確保 … P. 3	
	I みんなで築くまち 《協働・行政経営》	1 市民が主役のまちづくりの推進 … P. 4 2 移住・定住の推進 … P. 5 3 市民と行政の情報の共有化 … P. 6 4 男女共同参画の推進 … P. 7 5 時代にあった行政サービスの実現 … P. 8 6 職員の育成 … P. 9 7 計画的なまちづくり … P. 10 8 健全財政の維持 … P. 11	
	II 安全・安心で快適なまち 《定住環境》	9 都市・住まいづくりと土地利用の推進 … P. 12 10 環境の保全・創造 … P. 13 11 地域情報化の推進 … P. 14 12 道路の整備 … P. 15 13 公共交通ネットワークの充実 … P. 16 14 上水道の整備 … P. 17 15 下水道の整備 … P. 18 16 消防・防災対策の推進 … P. 19 17 交通安全の推進 … P. 20 18 防犯対策・消費者自立支援の推進 … P. 21	
	III 支えあい健やかに暮らせるまち 《保健・医療・福祉》	19 地域医療の充実 … P. 22 20 健康づくりの推進 … P. 23 21 高齢者福祉の充実 … P. 24 22 障がい者(児)福祉の充実 … P. 25 23 生活困窮者の支援 … P. 26 24 地域福祉の充実 … P. 27 25 子育て支援の充実 … P. 28	
	IV ふるさとを学び育つまち 《教育・文化》	26 学校教育の充実 … P. 29 27 生涯学習の推進 … P. 30 28 青少年健全育成の推進 … P. 31 29 平和と人権の尊重 … P. 32 30 生涯スポーツの振興 … P. 33 31 地域文化の振興 … P. 34	
	V 挑戦し活力を産みだすまち 《産業》	32 起業・就業支援の充実 … P. 35 33 地域資源を活かした産業の創出 … P. 36 34 農業の振興 … P. 37 35 林業の振興 … P. 38 36 観光の振興 … P. 39 37 商工業の振興 … P. 40	

総合戦略マネジメントシート〈第2次雲南市総合計画 振り返り〉

作成日 令和 6 年 7 月 1 日
更新日 令和 年 月 日

総合戦略区分体系	定住基盤の整備	チームリーダー	うんなん暮らし推進課長 佐藤 尚子
(プロジェクトチーム)	(定住対策プロジェクトチーム)	関係課	政策推進課、うんなん暮らし推進課、 広報広聴課、こども家庭支援課、こども政策課、商工振興課、農業畜産課、建築住宅課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 子育て世代を重点対象にした移住・定住対策を展開し、人口の社会増を目指す。	A 人口の社会動態(転入から転出を減じた人数) 〈「島根県の人口移動と推計人口」で把握〉	人	目標	73	▲254	▲66	▲1	33
			実績	▲179	▲265	▲158	▲140	-
			目標					67
			実績					▲298
	B 20-30代の増加目標人口(社会動態のみ) ※()内は全体の人口増減数(自然動態含む)	人	目標	198	199	199	199	199
			実績	▲107(▲224)	▲182(▲704)	▲112(▲675)	▲114	-
			目標					194
			実績					▲203(▲764)
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○人口の社会動態は改善しつつあるが目標値には達していない。(H29: ▲338→R5: ▲140) ○県内の人口社会動態も改善している。(H29: ▲233→R5: ▲66) ○20代、30代の社会動態はR1年度に比べ改善傾向にある。(R1: ▲203→R5: ▲114) ○定住施策の取り組みにより、改善傾向が見えてきたものの目標値を大きく下回っている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○市民への定住施策の周知が不足しており、若者や女性に届くプロモーションが必要である。 ○子育て家庭へのアンケートでニーズをつかみ、経済的支援やサービスの拡充を図ってきたが、「子育て支援に関する行政サービスが整っていると感じる保護者の割合」は低下(R2: 83.3%→R5: 78.7%)しており、子育てを取り巻く複合的な環境が低下する要因と考えられる。 ○「子育てをしながら働きやすいと感じる保護者の割合」は低下(R2: 69.8%→R5: 47.3%)してきており、子育てしながら働きやすい職場環境については、周囲の理解や人員不足などの職場体制においても課題が考えられ、企業と連携した取り組みが必要となっている。 ○若者や女性が希望する職種が市内に少なく、求職と求人のミスマッチがあり、若者や女性からの希望が多い事務系職種の企業誘致の取り組みを引き続き進めていく必要がある。 ○民間賃貸家賃助成や定住促進住宅等の家賃軽減により、住まいに関する経済的支援を行ってきた。また新婚世帯を対象とする等、拡充を進めてきた。一方、移住者が希望する住まい(賃貸物件)は少ない。 ○専門相談員による移住定住相談により、市外からの移住者は増加傾向(R2: 98人→R5: 125人)である。一方、転入者の半数以上を占めるUターン者は、相談窓口を経由しない傾向がある。 ○「全域が都市計画区域外の地域自主組織」の人口の社会動態は減少しており(R2: ▲28人→R3: ▲64人→R5: ▲62人)、周辺地域対策として、特定地域づくり協同組合「協同組合ワークアラウンドうんなん」をR4年度に立ち上げ、R5年度より派遣職員1名体制での運営を行ってきた。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○子育て世帯にとって住みやすいまちを実現するため、社会全体で子育てをする環境を醸成し地域への愛着から定住につなげる取り組みを継続していく必要がある。 ○県内Uターン者の転入が多い中、市内出身者や関係人口層とのつながりを作りながら移住へのアプローチを図っていく取り組みが必要となっている。 ○職場環境においては周囲の理解や業務体制が整わず、子育てしながら働くことに難しさを感じる声があるため、企業と連携し子育てしながら働きやすい職場づくりに取り組むことが課題となっている。 ○雲南市の合計特殊出生率は島根県(H25-29平均: 1.72%、H30-R4: 1.6%)と比べ低く、低下傾向(R25-29平均: 1.65%→H30-R4平均: 1.5%)にある。これを上げていくために引き続き粘り強く結婚支援や子育て支援の取り組みが必要となっている。 ○移住者や関係人口が増加する中で、働き方や住まいなど多様化するライフスタイルのニーズにあわせた基盤整備が課題となっている。

総合戦略マネジメントシート〈第2次雲南市総合計画 振り返り〉

作成日 令和 6 年 7 月 1 日
更新日 令和 年 月 日

総合戦略区分体系	人材の育成・確保	チームリーダー	政策推進課長 鳥谷 健二
(プロジェクトチーム)	(チャレンジ創生プロジェクトチーム)	関係課	政策推進課、地域振興課、うんなん暮らし推進課、広報公聴課、環境政策課、健康づくり政策課、商工振興課、キャリア教育政策課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 人口減少や技術の進展等の社会変化に対応し、まちの持続可能性を高める人材の育成・確保を目指す。	A [幸福度] 安心して暮らし続けられるまちと感じる市民の割合 〈市民アンケートで把握〉	%	目標	73.0	73.0	74.0	74.0	75.0
			実績	74.9	74.5	71.2	70.4	
			目標					-
			実績					72.9
	B [環境] チャレンジしやすいまちと感じる市民の割合 〈市民アンケートで把握〉	%	目標	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
			実績	43.8	44.9	42.0	42.6	
			目標					-
			実績					41.0
	C [人材] スペシャルチャレンジ制度への申請件数 〈政策推進課で実数把握〉	件	目標	40	42	44	46	48
			実績	27	36	18	22	
			目標				-	-
			実績				14	37
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○第2次総合戦略の期間中は、前半、目標値より高い実績値であったが、コロナ禍の影響を受け、市民活動の制限により、チャレンジしやすいまちと感じる市民の割合の低下につながったと考えられる。 ○キャリア教育に取り組んできた世代では、チャレンジしやすいまちと感じる割合は目標達成度は9割近くと、着実に向上している。 ○第2次総合戦略では、「課題解決先進地」を目指し、意欲ある若者やプロジェクトを重点的に支援する方針の中で、市民全体への拡がりへ時間を要していると考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○意欲ある若者の実践をサポートする幸雲南塾やスペシャルチャレンジ制度等を通じて、地域課題・社会課題を解決するビジネスモデルが生まれ(51事業)、新たな雇用創出や民間企業との協業による事業展開も始まっている。R5年度からは、幸雲南塾をリニューアルし、先輩起業家が主導する学び合い型のコミュニティづくりに取り組んでおり、市外県外の社会起業家等とのネットワークも活かしながら若者・女性等の実践をさらに多分野へ広げていく。 ○高校魅力化のさらなる推進を図るため、H29年度から市内高校に教育魅力化コーディネーターを配置し、地域課題に対する意識変容や意欲ある学生による実践活動など増えている。 ○「雲南市チャレンジ推進条例(H31.3月)」を制定し、子ども、若者、大人の全世代のチャレンジを推進し、市内外の企業と地域との連携による地域課題解決の取り組みも生まれている。若者の活躍が「日本一チャレンジにやさしいまち」というポジティブなイメージを創出し、社会課題の解決に向けたチャレンジを一層生み出していくまちとしてブランディングにより、市外での認知が広がっている。 ○近年は社会動向が改善傾向にあり、20代、30代の転入が増加し、松江市・出雲市への流出も改善しているほか、意欲ある子ども、若者の活動が活発化し、次世代のまちづくりへの参画が広がっている。一方で若者が魅力を感じる職場が少ないといった課題がある中で、様々な実践が人材還流にまで至っていない。 ○県外在住の出身学生や若者による本市まちづくりに関わる活動が生まれてきており、また、様々なチャレンジの取り組みから都市圏の企業関係者とのつながりも拡大している。こうした関係者による雲南コミュニティの創出と関係人口の拡大につながっていく必要がある。 ○デジタル人材・確保に向けて、テクノロジーに触れる場づくりやデジタルスキルを学環境づくりが進んでいる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○子ども、若者、大人、企業チャレンジをベースに、チャレンジの裾野を広げ、事業や社会を変革するチャレンジャーを多分野で創出していく必要がある。 ○人口減少、担い手不足により、まちづくりを支える基盤の維持が困難になりつつあり、様々な分野の担い手を横断的に育み、活躍できる環境や仕組みづくりを進めていく必要がある。 ○ソーシャルチャレンジを加速させるため、チャレンジを応援する新しい資金調達の仕組みづくり、学び合う環境づくり、まちに必要な人材獲得を進めます。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	地域振興課
			施策統括課長	加藤 信也
	施策名	01.市民が主役のまちづくりの推進	関係課	政策推進課,総務課,健康福祉総務課, キャリア教育政策課,社会教育課,自治 振興課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような 状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
まちづくりの課題 を主体的に解決 する。	A まちづくりに関心がある市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績	75.1	72.0	73.8	73.7	
			目標	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
			実績	73.8	73.8	73.7	74.5	71.8
	B 過去1年間に地域活動に参加した市 民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	61.4	59.0	59.8	65.8	
			目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	71.6	68.4	70.5	72.9	71.8
	C 地域課題を地域主体で解決できてい ると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績	37.5	35.4	35.1	37.3	
			目標	50.0	50.0	55.0	58.0	60.0
			実績	45.4	56.2	39.8	42.2	38.1
	D【新指標】関係市民 ※雲南市のまちづくりや地域づくりに自らの意思で 関わっている市外在住者(ふるさと納税者、U.C.C、 幸雲南塾生、スペシャルチャレンジのチャレン ジャー、企業チャレンジ関係者)	人	目標	4,100	4,200	4,300	4,400	4,500
			実績	7,414	8,306	9,628	12,180	
			目標					
			実績				3,940	8,588

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aはほぼ横ばい、B、Cは若干低下している。コロナ禍の影響により地域活動を自粛せざるを得ず、地域活動に参加した市民の割合、地域主体での課題解決ができていないと感じる市民の割合の低下につながったと考えられる。 ○成果指標Dについては、多様な主体によるチャレンジの拡大やふるさと納税の促進などによって大きく成果が向上した。 ○キャリア教育に取り組んできた世代の地域課題解決に向けた意識や地域活動に関心や意欲をもち参画する割合は高まりつつある。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○地域自主組織設立から間もなく20年が経過する中、地域における課題解決に向けた取組が積極的に展開され、協働のまちづくりが進んでいる。一方で、人口減少や高齢化のさらなる進展により、地域づくり活動の担い手や持続性の確保が困難になってきているため、次世代等が地域づくり活動に関わる機会創出などを支援するとともに、今後の地域のあり方について地域と行政で学び合う場を積極的に設けていく。 ○地域自主組織の活動拠点である交流センターについては、交流センター施設整備計画を踏まえ、活動拠点としての機能確保はもとより、誰でも利用しやすい交流センターとなるよう、地域との協議を踏まえながら計画的な整備を実施している。 ○小規模多機能自治推進ネットワーク会議(R6.5月末現在352会員(自治体275、団体55、個人22))により、小規模多機能自治を全国的に普及・推進するとともに、国に対して法人制度改革に関する要望等を実施している。この取組により、R2年度に認可地縁団体の見直しにつながっているが、引き続きネットワーク会議の組織力を活かして新たな法人制度の創設を国に求めていく必要がある。 ○H29年度に自治会運営交付金の交付算定方式の見直しを行い、H30年度から適用している。 ○意欲ある若者の実践をサポートする幸雲南塾(R3年度まで150人以上が卒業)やスペシャルチャレンジ制度等を通じて、地域課題・社会課題を解決するビジネスモデルが生まれ(51事業)、新たな雇用創出や民間企業との協業による事業展開も始まっている。R5年度からは、幸雲南塾をリニューアルし、先輩起業家が主導する学び合い型のコミュニティづくりに取り組んでおり、市外県外の社会起業家等とのネットワークも活かしながら若者・女性等の実践をさらに広げていく。 ○「雲南市チャレンジ推進条例(H31.3月)」を制定し、子ども、若者、大人の全世代のチャレンジを推進し、市内外の企業と地域との連携による地域課題解決の取組も生まれている。市民活動を支えるコミュニティ財団の設立やおせっかい会議による地域の支え合い活動が市民主体で行われるなど、協働によるまちづくりが着実に進んでいる。 ○県外在住の出身学生や若者による本市まちづくりに関わる活動が生まれており、また、様々なチャレンジの取組から都市圏の企業関係者とのつながりも拡大している。こうした関係者による雲南コミュニティの創出と関係人口の拡大につなげていく必要がある。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○持続可能な地域づくりに向けて、地域自主組織や活動団体等が行政とともに主体的に課題解決に取り組んでいく。 ○次世代を担う若者のまちづくりへの参画を促進し、多世代・多様な主体による地域活動の担い手づくり、場づくりを推進する。 ○関係市民を創出・拡大し、地域の課題解決や新たな価値の創造に向けた取組を促進する。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	うんなん暮らし推進課
	施策名	02.移住・定住の推進	施策統括課長	佐藤 尚子
			関係課	政策推進課,広報広聴課,環境政策課,こども政策課,商工振興課,農業委員会事務局,建築住宅課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 雲南市に移住・定住してもらう。	A 転入者人口	人	目標	1,064	1,067	900	900	900
			実績	746	664	727	802	
			目標	923	959	993	1,027	1,061
			実績	963	908	711	742	809
	B【新指標】転出者人口	人	目標	991	989	970	915	860
			実績	925	929	885	942	
			目標	1,075	1,056	1,036	1,014	994
			実績	1,055	1,072	1,049	1,046	1,107
	C【新指標】人口の社会動態(転入から転出を減じた人数) ※施策07「計画的なまちづくり」の成果指標を移管。	人	目標	73	78	▲ 66	▲ 1	33
			実績	▲ 179	▲ 265	▲ 158	▲ 140	
			目標	▲ 152	▲ 97	▲ 43	13	67
			実績	▲ 92	▲ 164	▲ 338	▲ 304	▲ 298
	D 市外から移住した世帯数・人数(定住支援スタッフがワンストップ窓口として関わるもの)	世帯・人	目標	50・122	50・122	50・122	50・122	50・122
			実績	56・107	37・71	57・113	63・127	
			目標	36・94	43・108	50・123	57・137	64・151
			実績	43・80	39・76	24・50	36・75	53・101

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標A、B、Cにおいて、目標値と開きがあるものの、人口の社会動態は改善傾向にある。 ○成果指標Dは、定住支援のワンストップ窓口として関わり、移住希望者を定住につなげる一定の実績がある一方で、Uターン希望者の相談は少ない。 ○R4年度から実施しているアンケートでは、就職や転職といった仕事に関する転出理由が最も多く、県内の転出者においては結婚の理由が多い。また、転入者の半数以上が以前に雲南市に住んだことがあると回答した。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○定住支援スタッフを配置し移住定住相談や情報発信、空き家バンクの運営を行った。 ○R1～2年度にかけて移住定住情報を発信するポータルサイト「ほっこり雲南」を改修し、情報発信に力を入れてきた。 ○フェイスブックやInstagramの投稿は以前から続けているが、頻度を上げてより充実したものとしてきた。R5年度からは新たにXでの発信をはじめた。 ○移住相談や空き家紹介はオンラインでも実施できるようになり、遠隔地からの移住希望者へのサービス向上につながった。 ○結婚対策事業として、婚活支援団体へ無料結婚相談や婚活イベントの事業委託を行うとともに、地域などで実施される婚活交流イベントに事業助成を行っている。 ○R4年度から県のモデル事業を活用し「高校卒業生とのつながり創出事業」を開始。市内高校の卒業生へ、雲南市で働くロールモデルを紹介する情報誌を配布し、Uターンや定住、関係人口の増加などにつなげることをめざしている。R5年度末で385名の卒業生が登録。 ○R4年度より「うんなん暮らしプロモーション事業」として、移住者のインタビュー動画や市内での働く場所について情報発信を行った。 ○空き家バンク制度(R2年度～R5年度登録数:151件)をR2年度より雲南不動産協会の仲介を必須として実施。物件情報の提供や空き家片付け補助金(R2年度～R5年度:37件)により空き家活用支援を継続している。 ○農地付空き家制度はR4年度まで継続して取り組んだ。 ○都市の仕事を地方でも出来る場や若者チャレンジの場として、空き家を活用したシェアオフィス(H27.5月開設)を運営している。 ○雲南市ふるさと会事業を通じた縁のある皆様により、本市のPRやふるさと納税などにご協力をいただいている。 ○R4年度に特定地域づくり事業協同組合「協同組合ワークアラウンドうんなん」が設立し、周辺地域対策として支援を行ってきた。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○働き方や住まいなど多様なライフスタイルを支える基盤整備に取り組む。 ○合計特殊出生率の引き上げを目指し、若い世代がライフデザインを描くための意識啓発に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	広報広聴課
			施策統括課長	細木 皇宏
	施策名	03.市民と行政の情報の共有化	関係課	総務課,自治振興課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 市政に関する多くの情報を得る。	A 市政に関する情報が分かりやすく提供されていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0
			実績	62.7	62.9	60.2	55.5	
			目標	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
			実績	52.3	72.9	66.7	58.7	58.3
	B 市政に関する情報が得やすいと感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
			実績	57.9	59.7	58.5	60.6	
			目標	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
			実績	53.1	71.8	61.5	54.4	58.4
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標A、Bともに、年度によるばらつきはあるものの向上している。 ○成果の向上面としては、H28年度末に行ったホームページリニューアル、市報うんなんの見やすさ向上(県広報コンクール入選)、雲南夢ネット地域情報の充実・SNS(Facebook、Youtube、LINE、Instagram)雲南アプリの活用など、様々な情報発信の取組が成果につながった一方、高齢化により情報を受ける年齢層も広がったことにより各世代の満足度の向上に繋がらなかったと考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○市政懇談会を新型コロナウイルス感染症流行期を除き、市内各町1会場(計6会場)で取り組んだ。R3年度からは「市政への提案箱」「市長との意見交換会」にも取り組み学生・子育て世代など、様々な立場のグループ・団体との意見交換会を行い、市政運営に反映させる取組を行った。 ○市長の定例記者会見(年4回)や、市職員による出前講座「ふるさとづくり講座」(R6年度47テーマ)を行い積極的な情報発信を通して市政への理解を深め、市民からの意見を市政運営に生かす取組を行った。 ○雲南市ホームページに新型コロナ対策・ワクチン接種・R3年7月豪雨災害など特設ページの開設対応や検索機能の向上に取り組んだ。各種SNSの活用策として公式facebookへの投稿、R3年度に公式LINE、R5年度に公式Instagramを開設し多世代に効果的な情報提供に努めた。さらに「雲南アプリ」や子育てポータルサイト、「子育てアプリだっこ」や定住支援サイト「ほっこり雲南」を開設するなど、子育て世代や定住推進の情報発信を強化した。 ○雲南夢ネットと定例協議を行い地域情報、音声告知放送等の効果的な情報提供の推進に取り組んだ。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○多世代の市民にとって興味を持ってもらい理解しやすく、かつ迅速な情報提供を行う。 ○市政懇談会、市政への提案箱などの広聴機会の充実に努め、市民の意見や要望を市政運営に反映する。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	人権推進室
	施策名	04.男女共同参画の推進	施策統括課長	熱田 賢二
			関係課	地域振興課,総務課,市民生活課,商工振興課,社会教育課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
誰もがお互いの個性と能力を認め合い、支えあう家庭・学校・地域・職場をつくる。		A 性別に関係なく誰もが平等に扱われていると感じる市民の割合(全体) (市民アンケート調査項目) ※H29年度までは「男女が」として設問	%	目標	72.0	72.0	73.0	73.0	74.0
				実績	70.5	69.1	67.5	69.4	
				目標	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
				実績	58.0	76.9	76.9	71.1	74.6
		B 性別に関係なく誰もが平等に扱われていると感じる市民の割合(男性) (市民アンケート調査項目) ※H29年度までは「男女が」として設問	%	目標	72.0	72.0	73.0	73.0	74.0
				実績	73.2	69.1	71.8	75.0	
				目標	68.0	68.0	69.0	69.0	70.0
				実績	66.1	80.3	81.3	71.6	77.0
		C 性別に関係なく誰もが平等に扱われていると感じる市民の割合(女性) (市民アンケート調査項目) ※H29年度までは「男女が」として設問	%	目標	72.0	72.0	73.0	73.0	74.0
				実績	68.8	69.1	65.0	65.8	
				目標	54.0	55.5	57.0	58.5	60.0
				実績	51.1	74.1	72.6	71.4	72.1
		D 市の関係する審議会などの女性委員の割合	%	目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
				実績	24.4	27.0	28.4	28.7	
				目標					
				実績	24.3	23.8	24.2	25.3	24.8

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☒ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標A、B、Cにおいて、男女が平等に扱われていると感じる市民の割合は、H27年度と比較すると、8.9～14.7ポイント向上している。但し、男女間での意識の差が生じている。 ○成果指標Dにおいて、庁内での啓発活動によりH27年度と比較し、4.4ポイント向上している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○男女共同参画意識啓発運営事業では、地域自主組織・交流センター職員対象研修、男女共同参画推進リーダー研修など、講演会やワークショップを中心に開催し、性別による固定的役割分担意識や慣習、しきたりにとらわれず、家庭・学校・地域・職場で男女が互いに認め合う意識を醸成していくための取組を実施している。 ○労働(職場)環境改善に係る取組の一環として、H23年度から市役所においてハラスメント研修及びアンケート調査を毎年実施している。 ○女性相談運営事業では、面接や電話による女性相談(H27年度:延べ173人、R元年度:延べ234人、R2年度:延べ262人、R3年度:延べ247人、R4年度:延べ181人、R5年度:延べ211人)をはじめ、女性弁護士相談、DVセミナー、デートDV講座等を実施し、様々な悩みをもつ女性への助言や情報提供、DVIに対する正しい認識を促している。 ○男女共同参画に関する市民意識調査によると、社会全体で見た男女の平等感についてR元年度が17.9%でR5年度が13.8%と下降した。その要因として様々な報道や情報に触れる中で、男女の教育格差や賃金格差、男女平等の達成度合いを示すジェンダーギャップ指数が日本で非常に低いことなどがこの数年間でより多くの人に認識された可能性があると考えられる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○性別に関係なく、全ての人の人権を尊重し、それぞれの個性と能力を活かし、あらゆる活動に誰もが参画できるまちづくりに取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	行財政改革推進室
			施策統括課長	奥井 雅司
	施策名	05.時代にあった行政サービスの実現	関係課	政策推進課,総務課,人事課,財政課,管財課,情報システム課,市民生活課,自治振興課,市民福祉課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 公平で効率的なサービスを受ける(提供する)。	A 市の行政サービスに納得している市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	71.6	71.7	70.6	74.5	
			目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	60.8	68.6	68.5	70.1	71.6
	B 行財政改革実施計画(R2～R6)の実施率	%	目標	80.0	85.0	90.0	95.0	100.0
			実績	76.9	75.4	78.5	83.1	
			目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0
			実績	63.0	68.5	74.1	79.6	87.0
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、前期、後期ともに目標値に近い数値で推移し、期間後半において目標値を達成している。 ○成果指標Bは、前期は行財政改革実施計画に掲げる54改革項目のうち43項目について、後期においては65改革項目のうち54項目について方針等を決定し実行したところであり、一定の成果を得ている。市民への周知、理解を得ながら進めていくためには十分な議論が必要とされることから、目標値よりは低くなっているものの、実績値は着実に伸びてきている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○H27.10月に、市役所本庁舎を移転した。また、掛合総合センターはH30.4月から新庁舎で、大東総合センターはR1.5月に移転し業務を行っている。 ○公共施設等総合管理計画(H28.3月)に基づき公共施設等の適正な配置・維持管理の実現のため、具体的な取組を示す実施方針を策定(H30.3月)し、合計49施設(転用2件、集約化6件、更新・改修等15件、廃止19件、譲渡7件)の見直しを行った。さらにR5.3月には実施方針(第2次)を策定し、合計13施設(廃止11件、譲渡2件※R5年度末現在)の見直しを行っている。 ○個人番号制度の周知を行い、併せて、住民票の写し等各種証明書のコンビニ交付に向けた検討を進め、サービスを開始(R1.11月～)した。 ○マイナンバーカードの交付申請や利用に向けたPR、手続きの支援を行い、カードの普及を推進した。 ○一部の市税等については、キャッシュレス納付を導入した。 ○手続きのオンライン化について、「しまね電子申請サービス」や「ぴったリサービス」を活用し推進した。 ○地方分権改革推進計画及び第4次から第9次一括法に基づく権限移譲の対応、行財政改革実施計画の推進、行政評価制度による事務事業や補助金の見直しなどを行った。 ○社会状況の変化や市民ニーズに即応する効率的な業務執行を図るため、「子ども政策局」(H27.4～)、「農林振興部」と「産業観光部」(H29.4～)、「防災部」(H31.4～)、「空き家対策室」(H2.4月～)、「ワクチン接種対策室」(R3.2.15～)、「災害復興調整室」・「原子力防災対策室」(R3.9.1～)、「市有財産活用推進室」(R4.10.1～)、「新ごみ処理施設整備準備室」・「観光施設再生活活用推進室※」・「広域観光・インバウンド推進室」・吉田及び掛合総合Cへ1課制「市民サポート課」(R5.4.1～)、「こども家庭センター」・「保健医療対策室※」・「予防接種対策室※」・「国スポ・全スポ準備室」(R6.4.1～)の設置など、組織機構の見直しに努めた。※は名称変更 ○民間活力を活かしたサービス向上をめざし、保育所業務等の民間委託を推進した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○市民に親しまれる市役所づくりと市民目線に立った行政サービスの提供に取り組む。 ○民間活力・行政DX、広域連携の推進によるサービス向上を図る。 ○行政サービスの効率化を進め、公共施設等総合管理計画に基づく老朽化施設の見直しなど資産の有効活用とコストの縮減を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	人事課
	施策名	06.職員の育成	施策統括課長	今岡 靖
			関係課	政策推進課,総務課,人事課,財政課,管財課,情報システム課,市民生活課,自治振興課,市民福祉課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 資質を高め、職務に活かす。	A 市職員の接遇に満足している市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	69.7	69.5	68.5	73.4	
			目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	64.0	68.4	67.1	69.7	70.4
	B 市職員として求められる能力を発揮している職員の割合	%	目標	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0
			実績	86.9	88.3	89.5	90.8	
			目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			実績	85.2	84.0	85.1	85.4	85.6
	C やりがいを感じて仕事をしている市職員の割合	%	目標	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
			実績	81.1	80.7	80.9	81.2	
			目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績	78.2	78.8	81.6	79.1	80.1
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、接遇研修の実施などにより年々向上しており、R5年度には目標値より高い結果となっている。 ○成果指標Bは、ほぼ横ばいで、概ね目標値より高い結果となっている。 ○成果指標Cは、目標値には達成していないものの、H27年度と比較し上昇傾向にある。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○定員管理計画に基づいた職員数管理に努めていたが、R3年豪雨災害及び新型コロナウイルス感染症の対応等により職員数の目標値は未達成となった(H27計画:507名、実績507名、R2計画:465名、実績466名、R5計画:465名、実績472名、R6計画:478名、実績478名)。 ○H26年度から人事評価制度を本格導入し、職員の目標達成と能力開発に活かしている。 ○自己申告書制度の活用や部局長による部局内異動を可能とするなど、適切な職員配置に努めている。 ○接遇、人権、コミュニケーション能力及び職員が希望する研修等を年間を通じて実施し、職員の能力向上を図っている。新規採用職員は、H22年度からR元年度までの10年間、コミュニケーション能力向上等を目的として、実際に地域に出かける「聞き書き文集」を作成している。 ○職員の健康管理のほか、ハラスメント防止に向けた研修等により働きやすい職場づくりに努めている。 ○女性職員の活躍及び次世代育成支援の推進に関する特定事業主行動計画(R3年3月策定)に掲げる目標達成に向け、長時間労働の是正、ワーク・ライフ・バランスの推進など働き方の見直しに取り組んでいる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○新たに策定する人材育成基本方針に基づき、職員の確保と能力開発を行い、組織の目標達成に向けて取り組む。 ○適切に人事評価を行い、人事管理に活用する。 ○職員の健康管理と風通しが良く働きやすい職場環境づくりに努める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	政策推進課
			施策統括課長	鳥谷 健二
	施策名	07.計画的なまちづくり	関係課	広報広聴課,財政課,行財政改革推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 市の施策を計画的かつ効果的に進め、目標を達成する。	A 各施策の成果指標達成率(目標を達成した成果指標数/成果指標総数)	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0
			実績	35.0	28.8	34.2	36.0	
			目標	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0
			実績	46.5	50.5	53.8	46.9	44.9
	B		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○前期基本計画の期間中については、目標達成度は5割程度にとどまっているが、各施策の成果は着実に向上している。 ○後期基本計画の期間中は、コロナ禍の影響を受け、市民活動の制限や事務事業の進捗が停滞したことにより、目標達成度は3割程度にとどまった。 ○一部の施策においては、実績値の推移を鑑み、目標値の上方修正を行ったことも要因として考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○第2次総合計画・総合戦略では、「課題解決先進地」をめざし、「人口の社会増」の実現に向けて、子育て世代の流出抑制とUターン増に向けた「定住基盤の整備」と、まちづくりの担い手となる「人材の育成・確保」を重点戦略に掲げ、事業の推進を図った。 ○子育て支援に対する満足度が向上し、30代の社会増減がプラス転換するなど一定の成果はあったものの、人口の社会増の実現には至っておらず、R2年国勢調査の結果を踏まえ、目標人口の下方修正を行った(R6年目標人口:36,500人→33,800人)。 ○近年は社会動態が改善傾向にあり、20代、30代の転入が増加し、松江市・出雲市への流出も改善しているほか、意欲ある子ども、若者の活動が活発化し、次世代のまちづくりへの参画が広がっている。一方で女性の県外転出が拡大しており、課題となっている。 ○基本計画の進行管理に関しては、施策評価を実施し、議会や雲南市総合計画推進委員会からも施策に関する意見を頂き、改革改善に努めた。また、各部局において組織目標を設定し、各課の目標を明確化することに加え、人事評価での個人目標につなげる取組を推進した。 ○後期計画期間中は、新型コロナウイルス感染症やR3年豪雨災害の復旧・復興への対応を最優先課題としながらも、市政運営が停滞しないよう実施計画に基づき必要な事業を計画的に推進した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○人口減少が進む中、市民・地域づくり組織等との協働や民間企業との連携、関係人口の拡大を図りながら、あらゆる力をいかし、総働でまちづくりを進めていく必要がある。 ○まちづくりの課題は、ますます多様化・複雑化することから、限られた行政資源を効果的にいかし、分野横断による施策の推進やDX化による効率化を進めていく必要がある。 ○人口減少、担い手不足により、まちづくりを支える基盤の維持が困難になりつつあり、将来を見据えた最適化に向けた仕組みの再構築を図る必要がある。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	I みんなで築くまち《協働・行政経営》	施策主管課	財政課
			施策統括課長	佐藤 伊知郎
	施策名	08.健全財政の維持	関係課	政策推進課、行財政改革推進室、人事課、管財課、税務課、債権管理対策課、会計課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 市の財政を健全に運営する。	A 収支不足額(基金繰入額) ※財政調整、減債基金繰入額	百万円	目標	90	0	760	800	1,200
			実績	90	0	488	842	
			目標	0	0	0	150	400
			実績	0	0	0	0	120
	B 実質公債費比率(3年平均)	%	目標	11.3	11.1	11.0	11.7	12.7
			実績	11.3	11.1	10.9	11.2	
			目標	12.4	11.4	11.3	11.3	11.8
			実績	12.4	11.4	11.0	10.8	11.1
	C 地方債残高(普通会計)	百万円	目標	37,725	37,522	36,885	36,917	36,620
			実績	37,725	37,522	36,753	35,703	
			目標	35,136	33,710	33,754	35,832	36,730
			実績	34,746	33,710	33,681	34,345	36,245
	D 基金残高	百万円	目標	10,291	10,862	9,813	8,737	7,244
			実績	10,291	10,862	10,090	9,636	
			目標	10,789	11,064	10,905	10,480	9,974
			実績	11,107	11,064	11,284	11,076	10,563
	E 市税徴収率	%	目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
			実績	98.8	99.1	99.0	99.1	
			目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
			実績	98.5	98.8	99.0	99.2	

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、計画期間の後期において繰上償還の実施等により目標値を下回った。 ○成果指標Bは、市債の新規発行額の圧縮や適切な繰上償還の実施により、目標値を上回った。 ○成果指標C、Dは、目標値を上回っているが地方債残高は増加、基金残高は減少傾向にある。 ○成果指標Eは、目標値を上回り、高い数値を維持している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○定員管理計画に基づく職員の削減や給与カットによる人件費削減に努めてきたが、R3豪雨災害及び新型コロナウイルス感染症の対応等により職員数の目標値は未達成となった(R5計画:465名、実績:472名)。 ○計画的な普通建設事業費による市債発行額の圧縮や計画的な繰上償還を実施した(～R5年度 繰上償還額 3,481百万円)。 ○合併特例債、過疎債の延長に伴い、有効に活用した(合併特例債:R6年度、過疎債:R12年度)。 ○過疎債(ソフト分)の新規拡充に伴い、有効に活用した(R5年度発行額:347百万円)。 ○地方交付税制度の研究会を立ち上げ、H24年9月に「交付税制度研究会報告書」を総務省へ提出(H26年1月に、市町村の姿の変化に対応した交付税算定について方向性が示された。H30年度普通交付税復元額:1,775百万円)し、その後も島根県交付税研究会等を通じて、国への提言を行った。 ○債権管理に関する庁内体制の調整を図り、納税相談においては、生活困窮者自立支援対策を軸に据え、相談者の生活状況、家計状況を把握により、生活実態に即した納税相談を進めた。新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期においてもなお、市税の高い徴収率を維持した。 ○ふるさと納税制度の充実により、財源確保に努めた結果、寄附額を大きく伸ばすことができた(R5年度:424百万円)。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○積極的にふるさと納税制度等を利用し、財源の確保に取り組む。 ○計画的な普通建設事業等の実施による市債の発行と償還とのバランスを図る。 ○事業全般の見直しにより健全財政の維持を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	都市計画課
			施策統括課長	藤原 昌弘
	施策名	09.都市・住まいづくりと土地利用の推進	関係課	政策推進課,うんなん暮らし推進課,国土調査課,農地整備課,建設総務課,建設工務課,空き家対策室,建築住宅課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 有効かつ効果的に利用・整備する。	A 中核拠点ゾーンが便利で賑わいがあると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
			実績	61.1	60.7	62.0	56.7	
			目標	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
			実績	47.8	60.6	62.7	63.7	66.4
	B 住んでいる地域が便利で住みよいと感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			実績	64.2	68.1	65.1	66.7	
			目標	63.0	63.0	64.0	64.0	65.0
			実績	56.1	68.4	67.1	64.5	63.3
	C 新設住宅建設戸数(持家・貸家・分譲) (※全市域対象)	戸	目標	60・5・5	60・5・5	60・5・5	60・5・5	60・5・5
			実績	55・9・3	62・26・0	67・54・1	73・50・1	
			目標	113	117	122	127	132
			実績	55・4・2	44・4・2	74・3・2	66・21・0	72・12・3
	D 都市計画区域内の建築確認申請件数(住居の新築)	件	目標	45	45	45	45	45
			実績	48	51	55	56	
			目標					
			実績	44	46	45	47	55

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☒ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、H27年度と比較し8.9ポイント向上している。中心市街地活性化事業によるコトリエツ周辺整備に加え雲南市立病院の改築、大型商業施設のオープン、住宅団地の整備などに伴い、沿線地域での利便性が向上し、新たな賑わいが創出されていると考えられる。 ○成果指標Bは、全体では10.6ポイント向上しているが便利で住みよいと感じる地域間格差が生じており、広域幹線道路の整備状況や隣接する他市との時間距離の違いが影響していると考えられる。 ○成果指標C、Dは、増加傾向が見られており、住宅団地の造成・分譲による効果が出ていると考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○H28年11月に、中心市街地活性化基本計画(計画期間:H28.12~R4.3)の認定を受け、購買力流出の抑制、定住人口及び交流人口の増加をめざしコトリエツ及びその周辺の整備を行った。メイン事業の一つであるビジネスホテル建設についても計画期間には間に合わなかったがR6年5月に着工しR7年夏頃のオープンに向け工事が進められている。 ○国道54号三刀屋拡幅事業(4.1km区間)は、中心市街地の幹線道路として、1~3期(県道三刀屋木次インター線交差点~里方交差点/1.7km)の整備がH27年度に完了し、現在、4期(県道神原木次線交差点~県道三刀屋木次インター線交差点/0.5km)の整備に取り組んでいる(R5年度末時点の整備率は41.5%)。 ○(都)新庄飯田線整備事業は、H30年11月にバイパス区間(2.0km)が供用開始し、現在4工区(275m)の事業に取り組んでおりR6年度中の完了が見込まれている。 ○災害ハザードエリアを考慮した居住誘導区域を設定する等、持続可能な都市づくりを推進するため、R5年1月に雲南市立地適正化計画を策定・公表した。 ○丸子山周辺の区画整理などにより、街路及びその周辺整備を行った。また、加茂中央公園など都市公園施設の長寿命化を図っている。 ○雲南市土地開発公社では、H27年度~R6年度末までの間で11団地、105区画の分譲を開始。購入者の約7割が市内在住者であり、子育て世帯の流出防止に一定の効果を発揮しているが、一方で空き家の増加要因ともなっている。 ○H28~H37(R7)年度までを計画期間とする住宅マスタープランをH28年4月に策定した。 ○子育て世帯定住地購入支援事業(H27~R5年度実績239件)の上限額拡充、定住推進住宅新築助成事業(H29~30年度実績6棟7戸)並びに子育て世帯市営住宅入居者支援事業(H27~R5年度実績18世帯)などに取り組み、子育て世帯の移住定住の促進を図った。 ○雲南市公営住宅等長寿命化計画に基づき、市営住宅の建設(三日市団地、基町団地)及びストック改善(大多和団地、宇治団地ほか)に取り組んだ。併せて、H31年度からの10年計画の改定を行った。 ○雲南市地籍調査実施計画に基づき、大東町(小河内、南村、塩田、篠淵)及び三刀屋町(根波別所、里坊、乙加宮、坂本、中野、六重、須所、古城、高窪)での現地調査を進め、進捗率は98.2%(R6年3月末時点)となっている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○中核拠点ゾーンを中心に地域特性を活かし、雲南らしさを保ちつつ都市機能の充実と効果的な土地利用を促進する。 ○雲南市土地開発公社と連携し、若者や子育て世帯が取得しやすい住宅地の供給や空き家・空き地の利活用に取り組み、地域の活力維持を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	環境政策課
	施策名	10.環境の保全・創造	施策統括課長	金山 雄児
			関係課	地域振興課、うんなん暮らし推進課、農業総務課、林業振興課、農地整備課、観光振興課、建設工務課、都市計画課、空き家対策室、建築住宅課、下水道課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 地域環境を守り、地球環境に配慮した生活をおくる。	A 自然環境が守られていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	74.3	74.9	73.5	78.2	
			目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	60.4	71.5	72.3	74.5	69.3
	B 環境美化等の環境の保全・創造に向け何らかの取組をしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	63.6	63.7	64.7	67.1	
			目標	53.0	54.0	55.0	56.0	57.0
			実績	66.4	65.3	71.3	70.1	67.6
	C 市民1人1日あたりのごみ排出量	g/人・日	目標	700	700	700	700	700
			実績	767	736	849	722	
			目標	670	660	646	646	646
			実績	696	696	704	731	730
	D ごみの資源化率(RDF方式による固形燃料分を含む)	%	目標	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0
			実績	50.2	53.0	46.5	57.9	
			目標	54.0	55.0	56.0	56.0	56.0
			実績	51.8	52.7	51.4	49.9	48.0

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、年々成果が向上しR5年度には目標値を超える実績となった。また、成果指標Bも、年々成果が向上している。コウノトリの飛来・営巣や脱炭素に係る取組など、自然環境に対する意識や関心が高まり、環境保全に向けた自治会や地域自主組織、市民団体による活動(美化活動、ごみ拾い、草刈り等)が積極的に行われ、環境保全活動を実践される人々が増加した結果と推測される。 ○成果指標Cは、大型小売店の進出等による都市化や生活様式の変化が進む中、個人のごみの排出量は年々増加傾向にあるが、成果水準としては、他団体と比較高い水準を維持している。 ○成果指標Dは、RDF方式による固形燃料化の効果が大きく、概ね50%台の水準を維持している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○H30年度に雲南市環境基本条例を制定し、本市の環境保全と創造に向け、積極的な施策の推進を図っている。 ○R5年度に雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例を制定し、コウノトリと共生する豊かな自然環境の保全に取り組んでいる。 ○R4年度に雲南市脱炭素宣言を行い、R6年度には雲南市脱炭素社会実現計画を策定し、持続可能な地球環境を未来に引き継ぐため、2050年の脱炭素社会の実現をめざし、様々な取組を行っている。 ○古紙・古着回収、ごみ分別(ごみ資源化)等の積極的な啓発及びRDF方式によるごみの固形燃料化を行っている。 ○ごみ処理施設の老朽化対策に取り組むとともに、次期一般廃棄物処理施設の整備に向け(R5.7月に基本合意書再締結)検討を進めている。 ○ごみ集積施設整備費補助金制度により、地域の良好な生活環境の保全を図っている。 ○太陽光発電設備導入促進事業補助金制度により、脱炭素社会の実現をめざし、再生可能エネルギー導入の促進を図っている。 ○地域活性化をめざす民間組織「里山照らし隊」が、関係機関と連携して研究開発された「炭蓄電器」を各総合センター及び市中央学校給食センターに設置した。 ○公共施設6か所に木質チップボイラーを導入し、森林バイオマスエネルギー事業に取り組んでいる。 ○下水道整備、多面的機能支払交付金制度及び森林保全活動の推進などにより、環境の保全・創造を図っている。 ○尾原ダム周辺において、桜の植樹や景観作物の栽培などの自然景観保全活動のほか、企業CSR活動による環境美化活動に取り組んでいる。 ○環境美化活動重点期間(6月)を中心に、市内各地で清掃活動や環境美化活動の推進が図られている。 ○第2次雲南市空き家対策基本計画に基づく取組を行っている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○市民・事業者・行政の協働により、環境の保全・創造に取り組む。 ○雲南市脱炭素社会実現計画に基づき、地球温暖化に繋がる温室効果ガスを削減するため、再生可能エネルギーや省エネの推進、森林資源の活用、ごみゼロ社会の実現に取り組む。 ○次期一般廃棄物処理施設の整備に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	情報システム課
			施策統括課長	門脇 史明
	施策名	11.地域情報化の推進	関係課	広報広聴課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 高度情報通信環境を利活用する。	A 日頃インターネットを利用している市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0
			実績	72.0	73.0	72.5	74.3	
			目標	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0
			実績	44.6	44.7	47.6	48.2	54.2
	B		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☒ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、年々向上しており、幅広い世代で各種電子媒体(スマートフォン・タブレット)の普及が進むことに加え、様々なソフト・アプリの開発・普及によるインターネット利用者の拡大が要因と考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○市の情報化の方向性を示した第2次雲南市情報化計画(R2～6年度)を策定した。 ○CATV自主放送チャンネル(11ch)のデータ放送を活用し、気象・防災情報の入手、ラジオ放送が聴取できるなどの整備を行った。 ○ケーブルテレビ機能の高速・大容量通信を可能とするため市内全域をHFC方式からFTTH方式への更新整備(R2～5年度)を行った。 ケーブルテレビでは4K・8K放送への対応、インターネットではブロードバンドへの進展、GIGAスクール環境が整った。 ○市が設置した移動通信用鉄塔施設及び光ケーブル施設について、携帯電話利用者に支障のないよう維持管理を行った。 ○IT講習会(スマホ活用相談会)を実施し、市民の情報活用能力の向上を図った。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○インターネットの高速化など施設の利活用を推進するとともに情報通信環境の向上を図る。 ○市民が情報通信機器を利活用するノウハウ習得・能力向上を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	建設工務課
	施策名	12.道路の整備	施策統括課長	松村 直樹
			関係課	建設総務課・都市計画課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
市内及び市外へ安全で便利に移動できる。	A 市道改良率(1車線改良を含む)	%	目標	61.7	61.8	61.8	61.9	61.9
			実績	61.7	61.8	61.8	61.8	61.8
			目標	57.2	57.3	57.4	57.5	57.6
			実績	56.8	56.8	61.6	61.6	61.7
	B 主要地方道改良率	%	目標	85.5	85.5	86.0	86.0	86.5
			実績	85.3	85.4	85.4	85.4	
			目標	84.5	84.7	85.0	85.2	85.5
			実績	84.3	84.8	84.8	85.0	85.4
	C 一般県道改良率	%	目標	64.9	65.5	66.1	66.7	67.3
			実績	64.8	64.8	64.8	64.8	
			目標	62.0	62.7	63.5	64.2	65.0
			実績	62.2	63.2	63.3	63.7	64.8
	D 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	目標	64.0	63.0	62.0	61.0	60.0
			実績	65.7	68.4	66.5	59.5	
			目標	72.0	71.5	71.0	70.5	70.0
			実績	71.0	51.7	53.3	64.6	72.3
	E 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	目標	68.0	69.0	70.0	71.0	72.0
			実績	65.2	63.9	66.8	63.7	
			目標	58.5	59.0	59.0	59.5	60.0
			実績	60.0	71.9	69.2	68.5	63.3

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、雲南市道路整備計画に基づき着実に実施したことにより、目標値を上回っている。 ○成果指標Bは、(主)出雲奥出雲線 前根波禅定工区や完了したことにより、着実に向上している。また、(主)安来木次線 真金工区等の整備についても、着実に進捗している。 ○成果指標Cは、(一)上久野大東線 金成工区や(一)掛合大東線 宇谷工区等の整備が完了したことにより、着実に向上している。 ○成果指標Dは、落石対策や既存道路の補修に力を入れたことにより、市民に見える形でより実感してもらえたと考えられる。 ○成果指標Eは、市道、主要地方道及び一般県道の着実な事業実施により、目標値を上回っている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○市道整備については、雲南市道路整備計画に基づき、計画的に整備を進めている。R4年4月現在の市道整備率は、61.8%に向上し、県平均を6.1%上回っている。 ○道路施設の維持管理計画に基づき、計画的に修繕を進めている。また、除草・簡易修繕作業については、外部委託により効率的できめ細やかな維持管理に努めている。 ○道路構造物について、市が管理する橋梁約1,000橋及びトンネル2か所の2巡目の点検を終えている。 ○除雪機械の民間所有台数の減少に伴い、合併以降市所有機械を増台して64台(車道用37台・小型除雪機27台)で冬期間の通行安全性と利便性向上を図っている。また、除雪ボランティア制度をH29年12月に開始している(R5年3月末時点で27団体213名登録)。 ○高速道路の整備に伴い、一般道の観光誘導サインの設置やサイクリングロードの整備を行った。また、加茂岩倉パーキングエリアのハイウェイオアシス化を図った。 ○松江自動車道加茂バスストップスマートICの新規設置について、設計や関係機関協議に取り組み、R4年8月7日に供用開始となった。 ○国・県道については、地元と協力して取り組み、着実な整備促進が図られている。 ○(主)出雲三刀屋線は、伊萱工区がR2年度に完了した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○市道の計画的な道路網の整備を推進する。 ○市の道路施設の本格的な維持更新時代に対応する適切な維持・修繕及び長寿命化に取り組む。 ○市道の除雪体制の確保に努め、冬期における通行の安全性の向上を図る。 ○国道・県道及び高速道路の整備・維持管理による利便性、安全性に優れた小さな拠点を結ぶ道路網の構築に向け事業推進を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	交通政策室
			施策統括課長	加藤 健一
	施策名	13.公共交通ネットワークの充実	関係課	地域振興課、長寿障がい福祉課、観光振興課、教育総務課、自治振興課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
					目標	実績	目標	実績	目標
市内及び市外に向けて安全・便利に移動できる。	A	市内の公共交通サービス機関(バス・JR・だんだんタクシー・デマンド型乗合バス)に満足している市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	目標	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
				実績	51.7	53.2	53.0	51.7	
				目標	43.0	43.0	44.0	58.0	59.0
				実績	45.3	55.8	57.3	55.1	48.5
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、雲南市民バス再編計画に基づく運行ダイヤの見直し、デマンド型乗合タクシーの導入、市内高校通学ダイヤの整備など、利用者ニーズを踏まえ、より利用しやすい生活交通の改善を図ってきた成果と考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○市民バス再編計画に基づき、デマンド型乗合タクシー(だんだんタクシー)を、H26年度から大東町海潮線と三刀屋町鍋山線、H27年度から大東町春殖・幡屋線、佐世線、阿用久野線、三刀屋町飯石中野線、高窪伊萱線、H28年度から大東町塩田線、H29年度から木次町日登線、西日登線、H30年度から加茂町加茂線として本格運行を開始している。 ○広域バス吉田大東線のダイヤ改正により、市内高校の通学環境の充実に努めている。 ○市民バスとしては、大型車両5台、中型車両16台、小型車両7台の計28台を保有し、運行している(R6.4月時点)。運行開始以降購入したバス車両の老朽化が進み、計画的な車両更新を行っている。 ○多様な利用者ニーズを踏まえ、だんだんタクシー・デマンド型乗合バス運行、NPO法人などによる福祉有償運送を行っている。また、高齢者・障がい者・免許返納者の優待乗車券制度も実施している。 ○一部地域では、スクールバスと市民バスを効率的に一体運行する混乗利用型運行も実施している。 ○吉田地域については、利用者意見等を踏まえ、H29年度に交通空白地有償運送の廃止に合わせ、デマンドバス運行の再編を図った。 ○松江自動車道の開通に伴う高速バスと市民バスのアクセス向上や高速道路内のバス停整備を行ったほか、JRや民間バス事業者とは連携してダイヤ改正や競合回避など地域の公共交通ネットワークの維持・向上に努めている。 ○H30年度に、沿線市町により「木次線利活用推進協議会」を設立し、JR木次線の利用促進に向けた地域の活性化に取り組んでいる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○まちづくりと連携した持続可能な公共交通体系を構築し、公共交通機関の利用促進を図る。 ○既存の交通網の整備を図るとともに、多様な交通手段の提供により、利用者の利便性の確保を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	工務課
			施策統括課長	小田川 謙一
	施策名	14.上水道の整備	関係課	環境政策課、水道局総務課、営業課、下水道課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				目標	実績	目標	実績	目標
目的 安全・安心で安定した水道の供給を受ける。	A 水道普及率	%	目標	95.7	95.7	95.7	95.7	96.0
			実績	95.9	96.1	96.2	96.2	
			目標	95.0	95.4	95.8	96.2	96.6
			実績	94.1	94.5	95.2	95.3	95.4
	B 有収率	%	目標	90.3	90.3	90.3	90.3	90.3
			実績	88.7	89.4	89.2	88.2	
			目標	89.4	89.5	89.6	89.7	89.8
			実績	89.0	89.3	90.0	88.9	88.7
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、山王寺本郷地区水道整備事業により給水エリアが拡張したことにより、成果が向上している。 ○成果指標Bは、目標値には達していないものの、高い水準を維持している。年々有収水量が減少する状況(直近5年は毎年3%程度減少)を考慮すれば、実際の漏水量は減少していると考察できる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
[未普及地域の解消] ○山王寺本郷地区水道整備事業により、水道未普及地域の解消を行った(配水管L=6,425m、給水36か所)。 [施設の統廃合] ○配水管路の見直しにより、郡浄水場を廃止した。 [老朽管路の更新] ○生活基盤施設耐震化等交付金事業において基幹管路の更新工事を実施している(配水管L=1,711m)。 ○R6年度から、上水道区域水道施設更新事業、旧簡易水道区域水道施設整備事業により老朽管の更新工事を実施している。 ○他事業に関連する支障移転工事においても、老朽管の更新が図られた。 [施設管理] ○R4年度に施設台帳システムを構築し、データの一元管理を行っている。 ○漏水調査を実施し、漏水箇所の計画的な改善に向け取り組んだ。 [経営の効率化] ○H29年2月に策定した雲南市水道事業経営戦略を基本として効率的な経営に努めた。 ○R5年7月に上下水道料金等審議会から料金改定について答申を受け、R7年度から平均5.07%引き上げることとしている。 ○事業の優先度を検討し、有利な財源を確保して借入金の抑制を行った。 ○収納率に目標値を設定し、未納対策の強化に努めた。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○施設及び管路の計画的な更新を行う。 ○安全・安心で安定した水道の供給と経営に努める。 ○効率的な資産の管理による経費のスリム化を図る。 ○水道事業における広域連携や広域化及び官民連携の検討を進める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	下水道課
			施策統括課長	飯島 昭
	施策名	15.下水道の整備	関係課	環境政策課,上下道局総務課,工務課,営業課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
					目標	実績	目標	実績	目標
衛生的な生活環境の中で暮らす。	A 下水道接続率		%	目標	81.6	81.7	81.8	81.9	82.0
				実績	83.7	84.1	84.0	85.8	
				目標	79.3	80.6	80.9	81.2	81.5
				実績	80.3	80.5	81.2	81.6	82.5
	B 下水道整備率		%	目標	90.0	90.1	90.2	90.3	90.4
				実績	90.7	90.9	91.3	91.6	
				目標	88.7	89.0	89.3	89.6	89.9
				実績	88.7	89.0	89.3	89.8	90.2
	C			目標					
				実績					
				目標					
				実績					
	D			目標					
				実績					
				目標					
				実績					
	E			目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、年々向上しており、目標値を超えている。一方、高齢者の独居や高齢者のみ世帯の増加により接続が進まない現状がある。 ○成果指標Bは、実施計画に基づいた面的整備が概ね完了し、浄化槽設置事業を行うことよって、目標値どおり年々向上している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
[施設の統廃合] ○雲南市污水处理施設整備構想に基づき、西本郷地区及び鍋山地区を木次三刀屋公共下水道区域へ施設統合を実施した。 ○施設の統廃合を行うため、加茂町にある大竹地区、加茂北及び中山地区、木次町にある大島引野地区、三刀屋町にある上熊谷地区の接続管渠敷設に取り組んだ。 [整備率の向上] ○集合処理区域外では、浄化槽設置事業により、R2年以降138基の浄化槽を整備した。 ○下水道整備率は、R5年度には91.6%となり、H27年度から2.9%向上している。 [経営の効率化] ○市民生活に重要なライフラインである下水道事業を将来も持続させていくため、使用者に適切な負担を求める必要があることから、下水道使用料をR4年4月から平均20%の引き上げを行った。 ○接続率の低い地区を中心に個別に実態調査を行うなど、接続率の向上に向け、広報活動を実施した。 ○収納率に目標値を設定し、未納対策の強化に努めた。 ○公営企業として独立採算が求められる中、的確な財務状況を把握するため、地方公営企業法を適用した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○施設の計画的かつ効率的な改築・更新・統廃合及び予防保全型維持管理を実施する。 ○施設統合による経常費用の削減や啓発活動による接続率向上及び適正な下水道使用料の設定に努め、下水道事業の健全運営に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	防災安全課
	施策名	16.消防・防災対策の推進	施策統括課長	女鹿田 比文
			関係課	地域振興課、原子力防災対策室、くらし安全室、健康福祉総務課、農地整備課、建設総務課、建設工務課、都市計画課、建築住宅課、自治振興課、市民サポート課、市民福祉課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 市民の生命・財産を火災・災害から守る。	A 火災発生件数(暦年)	件	目標	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満
			実績	19	17	22	21	
			目標	15未満	15未満	15未満	15未満	15未満
			実績	19	18	14	17	9
	B 災害に対する家庭内での備えをしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	32.0	34.0	36.0	38.0	40.0
			実績	31.2	33.6	36.3	36.1	
			目標	30.0	40.0	45.0	50.0	55.0
			実績	20.8	27.5	25.0	30.1	28.7
	C 自主防災組織(30地域自主組織)の地区防災計画の策定率	%	目標	33.3	50.0	66.7	83.3	100.0
			実績	36.7	36.7	50.0	56.7	
			目標					
			実績	20.0	23.3	23.3	23.3	36.7
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、春・秋の火災予防週間などの啓発活動を行っているが、ほぼ横ばい。 ○成果指標Bは、自然災害の激甚化や、それに対応して出前講座や地域での訓練参加への要請が増えていることから、防災に関する市民の関心は高まっているが、目標値には達しなかった。 ○成果指標Cは、R5年度末時点で56.7%となっており、計画未策定の地域においても防災体制の確立や訓練実施など活動が推進されている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○自主防災組織の地域自主組織単位での組織化が進み、出前講座や円卓会議等において、行政と地域間の連携や情報共有の方法について改善を図っている。 ○地域自主組織・自治会の協力のもと、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の作成・更新を推進し、(地域内の連携体制構築を図る取組をモデル的に試行するなど)実効性のある避難支援に努めている。 ○災害時における情報伝達手段の多様化に向け、280MHzデジタル同報無線システムの整備を進め、R3年10月から運用を開始した。 ○土砂災害警戒区域の指定、浸水想定区域の指定を受け、危険箇所や避難所等記載した防災ハザードマップを作成し全戸配布した。 ○地元要望などにより土砂災害の恐れのある危険箇所を把握し、対策事業の実施や国・県に事業化を求めている。 ○県及び市の排水ポンプ車を活用し、内水氾濫の被害防止を図っている。 ○地域防災計画(原子力災害対策編、R6.6月改定)及び広域避難計画(R4.6月改定)等に基づき、島根県原子力防災訓練を実施している。 ○消防施設備品整備補助事業や上水道消火栓等整備事業、防火水槽整備事業などにより、消防防災施設や備品を整備している。 ○H28年度から消防団の組織再編(体制、定数)に向けた検討を進め、R3年4月に新組織体制への移行を行った。 ○木造住宅耐震化等促進事業により耐震化率の向上(H23～R5年度まで申請実績98件)につながっている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○住民主体による防災対策の取り組みを推進し、防災力の向上を図る。 ○自主防災組織の運営や活動の充実に向けて取り組む。 ○防災情報の伝達手段の多様化を進めるとともに、情報発信の迅速化を図る。 ○常備消防との連携強化とともに、消防団の効率的な活動と環境整備を進める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	くらし安全室
			施策統括課長	宮川 勉
	施策名	17.交通安全の推進	関係課	建設総務課、建設工務課、都市計画課、学校教育課、自治振興課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 交通事故に遭わない、起こさない。	A 交通事故発生件数(暦年/高速道路を除く)	件	目標	800未満	800未満	800未満	800未満	800未満
			実績	831	889	829	919	
			目標	1,000未満	1,000未満	1,000未満	1,000未満	1,000未満
			実績	866	933	966	968	861
	B 交通事故死傷者(死者・負傷者)数(暦年/高速道路を除く)	人	目標	0・40未満	0・40未満	0・40未満	0・40未満	0・40未満
			実績	1・47	0・40	0・20	0・46	
			目標	0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満
			実績	2・54	1・58	0・56	2・46	3・43
	C 運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤっ)と感じた市民の割合<市民アンケート調査項目>	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
			実績	71.3	70.6	69.3	67.9	
			目標	69.0	68.0	67.0	66.0	65.0
			実績	68.7	68.8	70.7	71.1	64.9
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、各地域の交通安全対策協議会による啓発活動等が行われ、H27年度に過去10年で最少となる866件を記録したが、以降は増加傾向にある。 ○成果指標Bは、死者数ゼロをめざし、歩行者の夜光反射材着用などの取組を強化してきたことからここ数年はゼロを達成している。一方、負傷者数については減少傾向にあったものの、R5年は一転して増加した。 ○成果指標Cは、ほぼ横ばい。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○雲南市交通安全対策協議会が中心となり、警察、学校及び地域住民による交通安全活動を推進している。 ○雲南市交通指導員設置事業や交通指導員警察連絡協議会運営事業により、継続的に街頭指導など、交通安全意識向上への取組を実施しているが、依然年間1,000件程度の交通事故が発生している。一方で、死亡者数についてはR3年以降0人が続いている。 ○交通安全施設整備事業により、毎年、カーブミラーやガードレール、区画線などを整備している。 ○地域からの要望、道路パトロールや雲南市通学路交通安全プログラムにおける危険箇所等の点検、抽出において状況把握を行い、必要な交通安全施設の整備を進めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○交通安全に対する意識啓発を促進し、市民自らの交通安全の意識を高め、安全で安心して暮らせる地域づくりに努める。 ○交通事故防止に向け、交通安全施設の充実を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅱ 安全・安心で快適なまち《定住環境》	施策主管課	くらし安全室
	施策名	18.防犯対策・消費者自立支援の推進	施策統括課長	宮川 勉
			関係課	総務課,市民生活課,学校教育課,自治振興課,市民福祉課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 犯罪、消費者被害にあわない。	A 刑法犯認知件数(暦年)	件	目標	120	120	120	120	120
			実績	71	51	47	62	
			目標	140	140	140	140	140
			実績	117	146	142	84	65
	B 身近で犯罪にあう不安を感じている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
			実績	30.4	25.6	30.3	26.8	
			目標	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
			実績	38.1	30.2	30.9	34.7	22.9
	C 消費生活センターの認知度 (市民アンケート調査項目)	%	目標	32.0	34.0	36.0	38.0	40.0
			実績	34.8	37.7	34.5	39.1	
			目標					
			実績				31.3	33.3
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、H27年度と比較し、減少傾向にある。主要罪種・手口別の状況をみると、全体の7割以上が窃盗犯となっている。 ○成果指標Bは、H27年度と比較し、減少傾向にあり、概ね目標を達成している。 ○成果指標Cは、市報等での啓発により、認知度が確実に向上している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○「雲南市犯罪のない安全で安心なまちづくり推進会議」を開催し、地域での活動やPRに努めている。 ○雲南地域防犯連合会に参画し、防犯広報・啓発活動を積極的に取り組んでいる。 ○LED防犯灯設置事業で各自治会から要望のあった防犯灯整備に対する助成を行っている(R6年3月末時点で、合計設置数1,766か所)。 ○市内に47基(R6年3月末時点)の防犯カメラ(寄贈)を設置し、犯罪抑止に努めている。 ○雲南市消費生活センター(H22年4月開設)において、消費者相談や広報を通じた様々な消費者被害防止の情報提供を行っている。年間約90件の相談や問い合わせがある。近年、全国的にロマンス詐欺や投資詐欺などが増加傾向にあり、雲南管内でも同様の特殊詐欺被害等が発生している。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○犯罪にあわないための意識の啓発活動を推進するとともに、犯罪被害や消費者被害が発生しにくい環境づくりに努める。 ○犯罪や消費生活についての知識を市民自ら身に付け、被害の未然防止に努める。 ○犯罪被害や消費者被害の相談に対して、関係機関と連携し迅速な対応に努める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	保健医療政策課
	施策名	19.地域医療の充実	施策統括課長	三成 裕子
			関係課	市民生活課,健康福祉総務課,長寿障がい福祉課,健康推進課,身体教育医学研究所,市立病院,市民福祉課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目 的 的	A 安心して医療機関を利用できると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績	80.1	81.4	81.1	79.7	
			目標	74.0	74.0	78.0	80.0	80.0
			実績	68.3	75.6	77.1	83.4	80.3
	B 雲南圏域(2次医療圏)医師数(人口10万対)	人	目標	145	145	145	145	145
			実績	155	155	未公表	未公表	
			目標	132	135	139	142	145
			実績	131(H26)	142	142(H28)	152	152(H30)
	C 健康について相談できる相手がいる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
			実績	94.6	96.1	95.7	96.1	
			目標					
			実績				94.2	89.4
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標A、Cは、年々向上し、目標値を達成した。この要因として、耳鼻科・眼科の開業、休日診療の実施、市立病院が在宅療養後方支援病院を担ったり、医師の参加による出前講座を開催するなど地域医療の充実に向け取り組んできたことが挙げられる。雲南市立病院の改築や掛合診療所の市立病院の附属診療所となったこと等により高まったと考えられる。医療提供体制の重厚感が増すことなどが主な要因と考えられる。 ○成果指標Bは、市立病院の先進的な医師確保対策の取組などにより目標値を達成した。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○H27.11月に市立病院建設工事に着手し、H30.3月に新本館棟が開院し、R1.10月にグランドオープンした。 ○市立病院の経営は、病院建設に伴い減価償却費の大幅な増により、経常収支の黒字化は厳しくなったが、蓄積した内部留保資金の維持に努め、経営の安定化が図られている。 ○市立病院の地域医療人育成センター事業の取組と地域枠推薦による医師の着任により、少しずつ若手医師の確保が出来るようになり、診療体制の充実が図られている。 ○医療職人材確保事業に引き続き取り組み、地域枠推薦制度を活用し島根大学医学部に6名が在籍し、医師22名が従事している(R6.4月現在)。 ○市立病院は、H27年度から在宅療養後方支援病院となり、H28年度に地域ケア科を設置し、開業医と連携し訪問診療を行うなど、在宅医療の取組を進め、地域包括ケア推進の一助を担っている。 ○H29.1月から、市立病院内で医師会による休日診療を実施しているが、R3.6月より新型コロナウイルス感染症への対応等により休止している。 ○救急医療については、可能な限り市立病院で受け入れを実施しているほか、ドクターヘリの運行、救急医療病院運営補助事業(平成記念病院)により、休日、時間外を含めた救急患者の受け入れを確保している。 ○市立病院を支援する市民団体の活動により、地域医療を支援する活動が定着し、その活動が市民にも認知されるようになった。 ○市立病院と掛合診療所の経営統合により、H31.4月に市立病院附属掛合診療所を開院した。 ○保健所・医療機関・福祉施設等と連携し、入退院連携マニュアルや在宅医療・緩和ケア情報ファイルの作成などを通じ、医療・介護の連携の推進を図っている。 ○地域包括ケアシステム推進会議(H28.10月設置)により、サービスが切れ目なく受けられる地域包括ケアの推進を図っている。 ○温泉地区・田井地区及び波多地区の地域医療確保に向け、旧田井診療所及び波多交流センターにおいて巡回診療を行っている。 ○「地域医療連携推進法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク」において病院等相互間の機能分担及び業務の連携を推進し医療提供体制の確保に努めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○地域・専門機関・行政が一体となり、在宅療養支援体制の構築に努め、地域包括ケアの充実を図る。 ○雲南市立病院を中心に関係機関相互の連携を深め、地域医療のさらなる充実を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康推進課
	施策名	20.健康づくりの推進	施策統括課長	土屋 悦子
			関係課	市民生活課、健康福祉総務課、長寿障がい福祉課、保健医療政策課、予防接種対策室、身体教育医学研究所、市立病院、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 心身ともに健康で暮らす。	A 日常的に健康づくりに取り組んでいる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
			実績	63.2	62.1	62.0	63.7	
			目標	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0
			実績	60.5	65.5	64.9	63.7	61.6
	B 特定健診の実施率	%	目標	50.0	53.0	56.0	60.0	60.0
			実績	34.4	36.9	38.3	38.8	
			目標					
			実績	33.8	35.8	36.3	39.3	38.8
	C 特定保健指導の実施率	%	目標	40.0	45.0	45.0	45.0	45.0
			実績	41.9	33.9	46.5	29.0	
			目標					
			実績	5.6	28.8	34.8	64.8	47.1
	D 40歳～64歳全がん男女別年齢調整死亡率(人口10万対)(5年間の平均)(ペイズ補正)(男/女)	単位なし	目標	117.5/63.0	117.5/63.0	117.5/63.0	117.5/63.0	117.5/63.0
			実績	108.4/74.9	99.8/91.6	96.5/86.9	134.8/89.7	
			目標	143.0/43.0	142.0/43.0	141.0/43.0	141.0/43.0	141.0/43.0
			実績	140.9/68.3	139.5/63.0	133.2/64.4	138.8/67.0	117.5/67.7
	E 自殺死亡率(人口10万対)(5年間の平均)	単位なし	目標	23.88以下	23.88以下	23.88以下	23.88以下	23.88以下
			実績	24.2	21.6	19.0	19.5	
			目標					
			実績	31.4	30.8	29.9	30.7	28.5

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、H27年度と比較し増加傾向にあり、取組の成果が表れているものの目標値には達していない。 ○成果指標Bは、H27年度と比較し増加傾向であるが、目標値には達していない。第2期雲南市国民健康保険健康事業実施計画(データヘルス計画)・第4期特定健診等実施計画【概要】によると未受診者の6割が「生活習慣病で定期通院をしている」ことがわかっている。 ○成果指標Cは、集団健診実施会場にて特定保健指導を当日実施したことで実施率を維持している。 ○成果指標Dについて、R4年度に比べ上昇している。この理由は、R4年度までは基準となる人口をS60年としていたが、R5年度からはH27年の人口を基準として算出しているため。 ○成果指標Eは目標を達成した。自死防止総合対策検討委員会等ネットワークを通じた関係機関での取組による成果が表れてきている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○健康づくりに取り組む機運を高めるための道標として策定した「うんなん健康都市宣言(H26.11.1)」の普及啓発を行っている。 ○第4次雲南市健康増進実施計画に基づき、市健康づくり推進協議会を中心に、市民の健康増進を図る取組を推進した。 ○地域運動指導員や食生活改善推進員の養成を行うとともに、地域自主組織やがん検診すすめ隊などと連携し、食生活や運動をはじめとする健康づくりに関する取組を推進した。 ○自死防止対策として、ゲートキーパー研修やリーフレットによる心の健康づくりに関する啓発を行っている。また、H31.3月に、「雲南市自死対策総合計画」を策定し、計画に沿った施策を実施できた。 ○地域包括ケア推進事業において、島根大学医学部との連携による健康調査等をもとに、地域ぐるみでの健康づくりや介護予防の普及啓発を行った。 ○雲南圏域健康寿命延伸強化事業(モデル地域活動)(R2～6年)により、大東町幡屋地区においてR3年度に実施した健康実態調査を基に減塩やのぼり、ポスターなどの啓発媒体を作成し、減塩や運動に関する取り組みを行った結果、R5年度の結果は改善されていた。 ○身体教育医学研究所うんなんの開所10周年を機にまとめた研究成果を踏まえた健康づくりの取組の普及啓発を行った。 ○健康づくり拠点施設整備基本計画に示した運動プログラムの策定に取り組んだ。 ○健康・医療情報を活用した効率的かつ効果的な国保健康事業の実施を図ることを目的としたデータヘルス計画を策定した。 ○H30年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村と共に国保運営を行うこととなった。国保健康事業は、市町村単位で実施されており、データヘルス計画により取り組んだ。 ○保健師等により、出前健康教育や健康相談、個別保健指導を実施し、生活習慣病の予防・重症化予防に取り組んだ。 ○第3次食育推進計画に基づき、関係機関との連携による望ましい食生活の普及・実践を推進している。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○うんなん健康都市宣言により、健康長寿・生涯現役をめざし、健康意識を高め、地域ぐるみでこころと身体健康づくりや介護予防に取り組むことで、地域包括ケアに寄与する。 ○疾病の早期発見、早期治療を推進するとともに、望ましい食生活、身体活動・運動及び休養を通じて生活習慣病の予防・重症化予防に取り組む。 ○地域包括ケア推進事業及び健康寿命延伸強化事業の全市展開による減塩チャレンジ(仮称)の全市展開に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
			施策統括課長	田中 秀信
	施策名	21.高齢者福祉の充実	関係課	市民生活課,健康福祉総務課,保健医療政策課,健康推進課,身体教育医学研究所、市民福祉課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 生きがいを 持つて、いきいきと暮らす。	A 生きがいを 感じている高齢者の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	71.3	76.8	75.9	71.5	
			目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
			実績	77.8	66.1	68.0	76.1	72.9
	B 要介護認定率(認定者数／1号被保険者数)	%	目標	18.9	18.9	19.1	19.2	19.3
			実績	19.2	19.1	19.3	18.9	
			目標	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
			実績	19.2	19.0	18.8	18.7	19.1
	C 日常的に健康づくりに取り組んでいる 高齢者の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績	74.4	76.8	73.3	73.1	
			目標					
			実績	77.8	79.4	75.6	75.9	72.6
	D 65歳平均自立期間(男性／女性)	年	目標	18.69・21.39	18.69・21.39	18.69・21.39	18.69・21.39	18.69・21.39
			実績	未公表	未公表	未公表	未公表	
			目標					
			実績	18.63・21.58	18.31・21.25	18.65・21.35	18.72・21.61	18.35・22.50

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
＊背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、H27年度と比較し、数値は下がっているが、平均74%の高い水準である。趣味や習い事、地域活動への参加などに生きがいを 感じる方が多く、家族や家庭での役割を持ち、地域でいきいきと生活しておられると考えられる。 ○成果指標Bは、ほぼ横ばいで島根県全体と比較すると要介護認定率が低い状況が続いている。健康づくりや介護予防事業の効果によるもの と考えられる。 ○成果指標Cは、H27年度と比較し、数値は下がっているが、平均75%の高い水準である。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○地域ケア会議により、多機関、多職種で地域課題の共有を図り、課題解決に向けた取組を推進している。 ○地域包括支援センターを中心に総合相談窓口を置き、適切な支援につなぐとともに、持続可能な運営体制を確保するため、H31.4月 から市社会福祉協議会への業務委託を行っている。 ○国の新オレンジプランに基づき、認知症地域支援推進協議会をはじめとした関係機関との連携により、認知症対策の推進を図ってい る。 ○生活支援コーディネーターの配置や「うなんん幸雲体操」など地域における生活支援や介護予防の充実を図っている。 ○外出支援・見守り支援において、バス・タクシー利用助成制度の見直しや配食サービスの対象者の拡大など、地域の実情に即した取 組を行っている。 ○高齢者の社会参加と生きがいづくりに向け、シルバー人材センター、老人クラブの運営を支援している。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○保健・医療・福祉分野が連携し、地域との協働により高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる環境づくりを進めること により、地域包括ケアの推進を図る。 ○健康長寿・生涯現役のまちづくりに向け、健康づくり・介護予防を一体的に推進し、重症化防止や認知症対策に努める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
	施策名	22.障がい者(児)福祉の充実	施策統括課長	田中 秀信
			関係課	健康福祉総務課、健康づくり政策課、保健医療政策課、こども家庭支援課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 障がいのある人が地域で、いきいきと安心して暮らす。	A 障がい者が地域で安心して暮らしていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
			実績	58.1	60.4	57.5	56.7	
			目標					
			実績				61.1	62.2
	B 障がい者雇用率 (常用労働者数43.5人以上規模の市内民間企業) ※R3年度までは45.5人以上	%	目標	2.20	2.30	2.30	2.30	2.30
			実績	2.23	2.57	2.57	2.84	
			目標	1.80	2.00	2.00	2.20	2.20
			実績	1.83	1.81	2.05	2.26	2.34
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、概ね横ばいで推移し、目標値には達成していない。地域で障がいに対する理解促進に取り組んでいく必要がある。 ○成果指標Bは、年々向上し、目標を達成している。障がい者就業・生活支援センターの取組や、雲南圏域障がい者総合支援協議会 就労支援専門部会を中心とした障がい者雇用に向けての普及・啓発が進んだことが要因と考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○R6.3月に、第4次雲南市障がい者計画及び第7期雲南市障がい福祉計画、第3期雲南市障がい児福祉計画を策定した。 ○障害者週間等で市役所ロビー展示や市報での啓発を実施し、障がいへの理解を深めた。 ○障がい者の就労の場の確保及び社会参加の促進を図るため、優先調達方針による業務委託を行っている。 ○災害時の避難生活を想定し、どのような支援が必要か個別の災害時アセスメント票を作成する取組を進めている。また、R5年度には災害時支援をテーマに通所サービスを行う事業所を対象とした研修会を初めて実施し、災害時支援の課題について共有した。 ○雲南市基幹相談支援センターと連携を密にし、総合支援協議会の運営方法や、相談支援専門員の人材育成の方法についての改善を図った。 ○障がい者虐待防止センターで障がい者虐待の相談を受理し対応に努めている。 ○相談支援専門員を対象に発達障がい者支援についての研修会や相談会を行い、障がい特性や支援方法の理解を深め適切な支援が提供できるよう質の向上を図った。 ○需要の高い放課後等デイサービスについて、事業所の新規開設(R5.3月:みかたっこ、R5.5月:CSいずも放課後デイサービス「つなぐ」)があり、福祉サービスの充実につながった。 ○スペシャルオリンピックスに参加することにより、障がい児(者)の社会参加が促進されている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○障がいへの理解を深め障がいによる差別解消を図るとともに、障がい者の社会参加による自立を促進する。 ○障がいのある方の望む暮らしを実現できるよう、本人の自己決定を尊重した支援を行う。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康福祉総務課
	施策名	23.生活困窮者の支援	施策統括課長	野々村 達志
			関係課	債権管理対策課、長寿障がい福祉課、保健医療政策課、健康推進課、こども政策課、こども家庭支援課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 生活困窮者が自立した生活をおくる。	A 生活保護から自立した世帯数(死亡・転出は含めない)	世帯	目標	14	14	14	14	14
			実績	9	8	7	16	
			目標	10	10	10	10	10
			実績	14	10	13	17	12
	B 生活困窮者自立支援の新規相談件数のうち、自立生活のためのプラン作成件数の割合	%	目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
			実績	24.9	24.8	30.8	23.3	
			目標					
			実績	39.2	34.7	24.8	33.6	34.8
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、継続的な就労支援に取り組んだ成果や、有効求人倍率が上がったことによる影響と考える。 ○前期基本計画の成果指標「生活保護率」は年々低下(成果は向上)している。生活困窮者自立支援制度による、生活保護に至る前段階からの支援による成果も影響していると考ええる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○生活保護法に基づき適正に保護の要否を決定し、被保護世帯には定期的な訪問や就労活動など、自立支援を積極的に実施している。 ○自立支援プログラム策定実施推進事業により策定したプログラムに基づき、就労支援員による就労支援等在宅生活の継続支援など、自立に向けた指導を行っている。 ○生活支援・相談センターで、生活困窮に関する相談業務(社会福祉協議会へ委託)を行っている。 ○生活困窮者支援調整会議を毎月定期的に開催し、ケースに応じた個別プランの作成や同行相談を行っている。 ○関係機関(医療・福祉・労働等)と生活困窮者自立支援ネットワーク会議を開催し、課題解決に向けた意見交換を行っている。 ○ひきこもり対策ネットワークなど関係機関と連携し、相談窓口の周知に取り組むほか、若者の就労支援を目的とした居場所をH30年度に開設した。 ○物価高騰等に対する対策として、R3～R5年度にかけて、非課税世帯や均等割のみ課税世帯を対象とした臨時特別給付金を給付した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○地域共生社会の実現を目指し、包括的支援体制の構築を図る。 ○早期からの相談支援、就労支援の充実を図るとともに、専門機関と連携して生活困窮者の自立に向けた包括的な支援を強化する。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	健康福祉総務課
	施策名	24.地域福祉の充実	施策統括課長	野々村 達志
			関係課	地域振興課、長寿障がい福祉課、保健医療政策課、健康推進課、こども政策課、こども家庭支援課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 地域で支え合い、安心して暮らす。	A 福祉ボランティア活動をした市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	36.0	36.2	36.4	36.6	36.8
			実績	31.4	27.8	30.2	31.4	
			目標	27.0	29.0	31.0	35.8	35.8
			実績	35.4	35.1	35.8	36.4	34.7
	B 助け合える地域であると感じる市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	73.0	73.5	74.0	74.5	75.0
			実績	72.0	71.9	72.4	73.6	
			目標					
			実績				72.0	74.6
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、目標値に達してなく、特にコロナ禍により下がってから回復していない。 ○一方で、地域自主組織福祉部、行政、市社協等の効果的な関わりの中で、地域ごとの課題を明確にした活動が進みつつある。市社協と連携した研修において、福祉を思う人づくりに取り組んでおり、自治会福祉委員と一緒に活動を行おうとする事例が出てきている。 ○成果指標Bは、徐々に向上しており、概ね目標値となっている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○民生委員・児童委員、自治会福祉委員及び地域自主組織における地域福祉推進員の連携により、地域福祉活動の充実が図られてきているほか、社会福祉法人、市民、民間団体、行政が連携した取組が進みつつある。 ○市及び社会福祉協議会にそれぞれ専任配置する第1層生活支援コーディネーターが中心となって生活支援体制整備事業を推進し、地域や関係機関が抱える課題把握(アセスメント)や、第2層生活支援コーディネーター(地域福祉推進員)など、担い手の養成に努めている。 ○自治会を基本単位とした「ふれあい・いきいきサロン」を推進し、介護予防、孤立防止、仲間づくりなど、居場所としての機能を持つ「通いの場」を提供している。 ○H29.3月に雲南市社会福祉法人連絡会(14法人)が設立され、R1.7月から法人の連携による相談窓口ネットワーク事業が開始されている。 ○地域自主組織・自治会の協力のもと、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の作成・更新を推進し、地域内の連携体制構築を図る取組をモデル的に試行するなど実効性のある避難支援に努めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○地域共生社会の実現に向け、包括的な支援体制の構築を図る。 ○地域、行政及び関係機関の連携により、誰もが地域でその人らしく安心して生活ができる地域づくりを推進する。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 6 年 11 月 20 日

総合計画体系	政策名	Ⅲ 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	施策主管課	こども政策課
	施策名	25.子育て支援の充実	施策統括課長	後藤 和子
			関係課	うんなん暮らし推進課、人権推進室、市民生活課、保健医療政策課、健康推進課、こども家庭支援課、学校教育課、キャリア教育政策課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図（どのような状態にするのか）	②成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的	A 子育て支援に関する行政サービスが整っていると感じる保護者の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
			実績	83.3	83.3	79.2	78.7	
			目標					
			実績				75.0	76.4
	B 地域の子育てに対する理解や関心が高いと感じる保護者の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	75.9	67.2	72.7	75.6	
			目標					
			実績				71.3	62.9
	C 子育てについて相談できる相手がいる保護者の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	84.0	85.0	86.0	87.0	88.0
			実績	92.7	94.0	93.8	94.6	
			目標					
			実績				83.8	80.0
	D 合計特殊出生率 ※合計特殊出生率は5年毎に厚生労働省より市町村毎の数値が公表される。単年度の数値は雲南市において算出した数値を用いる。	単位なし	目標	1.78	1.80	1.82	1.84	1.86
			実績	1.60	1.43	1.37	1.50	
			目標	1.69	1.72	1.75	1.78	1.81
			実績	1.89	1.64	1.74	1.54	1.45

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○合計特殊出生率は減少傾向にあるが、義務教育終了までの子ども医療費の無料化、土曜保育減免、第3子以降保育料の無料化、放課後児童クラブの充実、子育てポータルサイトの開設による市民への情報提供、「子ども家庭支援センター(すワン)(H27～)」や「母子健康包括支援センター(だっこ♪)(H30～)」を設置し、相談や体制を強化する等、経済的支援をはじめとする保護者へのきめ細かな行政サービスを行うことにより、成果指標は概ね目標値を達成した。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○母子保健推進員による「産前産後サポート事業」、雲南市立病院及び市内助産院への委託による「産後ケア事業」の実施。 ○産前産後訪問サポート事業(家事支援・育児支援)を実施。R5年度より多胎児養育家庭支援事業を実施。 ○安心して妊娠・出産・子育てができるよう母子保健コーディネーターを配置し、全ての妊産婦の状況の継続的な把握、支援に取り組んだ。 ○全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、伴走型相談支援を推進し、その実効性を高め、経済的支援を一体的に実施するため 「出産・子育て応援交付金」を活用した経済的支援を行った。 ○母子保健包括支援センター「だっこ♪」において、妊娠期からの相談に対応した。また、うんなん子育てアプリ「だっこ」を開発し、情報配信している。 ○子どもの相談窓口として「子ども家庭支援センターすワン」や「子ども家庭総合拠点」でこどもとその家庭の相談等により支援を行い、子育てに関する手続きや制度、親子で遊べる場所等の情報をまとめた「子育て応援ガイドブック」を毎年改定して発行している。 ○子ども医療費助成制度により中学生まで(H27年度～)医療費を無料としている。 ○病児病後児保育事業を市内4か所(大東、三刀屋、掛合、加茂)で実施し、保護者の子育てと仕事の両立支援を図った。 ○放課後児童クラブは、全15小学校区中10小学校校区(移送対応含む)で開設し、開所時間の見直しを行うなど、保護者の子育てと仕事の両立支援を図った。 ○R3年度から木次こども園新園舎における運営を開始し、定員増、保育時間の拡大、一時預かり、延長保育の実施等サービスの拡充を図った。 ○多様化する働き方や、保護者のニーズに対応するため、保育短時間利用者の延長保育を実施。また、おむつの自園処理実施に向けてゴミ箱等の施設整備を行った。 ○保育所保育料は、土曜減免(保育料の2割軽減)、18歳未満の児童が3人以上いる世帯で第3子以降の児童であれば教育・保育施設の保育料を無料とする「第3子以降保育料の無償化」を実施しているほか、3歳児以上児の副食費の無償化を実施している。 ○発達段階に応じた運動遊びを体系的にまとめた「雲南市幼児期運動プログラム(実践編)」の策定(H28.3月)を踏まえ、教育・保育施設での活用をはじめ、「親子で一緒にふれあい遊び」のリーフレットや「うんなんわくわくあそびMAP」の配布などによる普及啓発に取り組んでいる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○「子育てするなら雲南市」をめざし、多様化する保育ニーズに対応するためのサービス及び施設の充実に加え、他機関連携による切れ目ない支援と、地域とのつながりを活かすことにより、子どもたちの健やかな成長を促す。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	学校教育課
	施策名	26.学校教育の充実	施策統括課長	伊藤 慶
			関係課	うんなん暮らし推進課、人権推進室、市民生活課、保健医療政策課、健康推進課、こども家庭支援課、学校教育課、キャリア教育政策課、市民福祉課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目 的 的	A 全国学力調査結果(全国比較;小学6年・中学3年、国語)	ポイント	目標	1・1	1・1	1・1	2・2	2・2
			実績	中止	▲2.7・▲1.6	▲4.6・▲1.0	▲1.2・▲2.8	
			目標	1.0・1.8	1.1・1.9	1.2・2.0	1.3・2.1	1.5・2.2
			実績	▲2.0・1.5	1.5・1.0	0・0	▲3・2	▲2・3
	B 全国学力調査結果(全国比較;小学6年算数・中学3年数学)	ポイント	目標	0・0	0・0	1・1	1・1	1・1
			実績	中止	▲4.2・▲4.2	▲5.2・▲6.4	▲2.5・▲7.0	
			目標	0.4・1.5	0.5・1.6	0.6・1.7	0.7・1.8	0.8・1.9
			実績	▲1.0・▲0.8	0.5・▲3.4	▲1・▲5	▲4・▲1	▲2・▲1
	C スポーツテスト結果(県比較;小学5年・中学2年、男女平均)	ポイント	目標	2.0・3.0	2.0・3.0	2.0・3.0	2.0・3.0	2.0・3.0
			実績	中止	1.02・1.27	1.15・2.70	0.15・4.45	
			目標	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5
			実績	1.04・1.04	0.97・3.74	2.53・2.31	2.02・2.71	1.39・0.7
	D 自分にはよいところがあると思う生徒の割合(中学3年生)	%	目標	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
			実績	71.1	75.0	82.3	84.9	
			目標	65.0	70.0	75.0	80.0	80.0
			実績	70.1	74.5	80.5	73.2	68.8
	E 地域課題に対し、解決策を考え、実践したことがある生徒の割合(高3生)	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	93.5	86.6	80.7	未実施	
			目標					
			実績	50.0	68.8	70.8	64.6	74.0

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった

* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)

- 成果指標Aは、全国平均を下回った。
- 成果指標Bは、全国平均を下回った。
- 成果指標Cは、県平均を上回っており、幼児期運動プログラムによる体力・運動能力及び身体活動量調査などの取組の成果と考えられる。
- 成果指標Dは、R元年度に以後は向上しており、ペアやグループでの学習を取り入れたことによる主体的・対話的な学びなどの成果と考えられる。
- 成果指標Eは、H27年度と比較し、大きく向上している。キャリア教育の推進による効果が表れている。

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○保幼小中高の一貫した『夢』発見プログラムにより、就学前からのキャリア教育を推進している。 ○高校魅力化のさらなる推進を図るため、H29年度から市内高校に教育魅力化コーディネーターを配置している。 ○コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を全ての中学校区に設置した。 ○H26年度からH29年度にかけて、国の委託事業「外国語教育強化地域拠点事業」の研究指定を受け、吉田及び田井小学校、吉田中学校及び三刀屋高等学校の4校で、小規模校・複式学級における外国語活動や外国語科の教育課程、指導方法等の研究などに取り組んだ。 ○不登校対応プログラムの実施、H30年度に不登校対策ガイドラインの策定に取り組んだ。 ○スクールソーシャルワーカー(2名)、スクールカウンセラー(H30年度より全校配置)、学校支援員・介助員の配置などにより児童・生徒の個に応じた支援を行っている。 ○おんせんキャンパスは、不登校傾向の見られる児童生徒等に対する支援を行っている。 ○H27年度から5歳児を対象とした発達に関するアンケート(すくすくアンケート)を悉皆で実施し、早期から支援を行うための足がかりとした。 ○H29年度に子ども家庭支援センター『すワン』での学習塾(まなびい)を開設し、読み書きなどに困難を抱える児童・生徒に指導を行っている。 ○小中学校へのエアコン設置を行うなど、学習環境の向上を図っている。 ○木次・三刀屋・吉田・掛合の給食センターの老朽化に伴い、4施設を統合する「雲南市中央学校給食センター」の整備を行った。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○学校、家庭、地域、行政等の連携・協働により、特色ある学校づくりの推進を図る。 ○教育の魅力化に向け、『夢』発見プログラムによる保幼小中高の一貫したキャリア教育の推進を図る。 ○困難さを抱える児童・生徒への支援の充実を図る。 ○快適な学習環境の確保に向け、計画的な学校施設等の整備を図る。 ○第5次教育基本計画の着実な推進を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅳ ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	和田 邦夫
	施策名	27.生涯学習の推進	関係課	地域振興課、学校教育課、キャリア教育政策課、自治振興課、市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 生涯を通じて自ら学び、人生を豊かにする。	A 日頃から学習活動を行っている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	31.0	31.0	32.0	32.0	33.0
			実績	32.0	32.7	32.7	32.7	
			目標	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
			実績	30.4	31.7	31.2	29.4	26.6
	B		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、ほぼ横ばいであるが、コロナ禍を経て若干減少の傾向がみられる。 ○地域自主組織・自治会単位で定着している研修会や出前講座は新型コロナウイルス感染症への対応として開催が控えられてことでR2年度からは大きく減少したが、徐々に回復基調が見られる。 ○個人ニーズの多様化や様々なライフステージに対応した市民活動団体による催し(親子活動、体験活動)など、仲間づくりも含めた学習機会の提供をしており、一定の水準を維持している。 ○図書館の利用者数はコロナ禍には減少したが、本の貸出冊数は利用者の減ほどの影響は受けておらず、家庭での生涯学習に寄与できていると考えられる。 ○学習活動に取り組んでいる人の割合を年代別で見ると、50～60歳代の活動の割合がやや低いが、60歳代後半からの活動の割合が高くなる傾向があり、高齢者が学び直しができる環境の整備等の取組が寄与していると考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○地域自主組織では、生涯学習担当の職員を中心に様々な学習機会の提供が図られており、市では、活動交付金の交付や地域づくり担当職員等のサポートなど、地域における学習機会の充実に向けた支援を実施している。 ○国際交流員の地域活動への参加や、市国際文化交流協会によるホームステイ事業をはじめとした国際交流事業の実施により、国際感覚を持った人材育成や異文化理解の促進につながっている。 ○コミュニティ・スクールや親学ファシリテーション、社会教育委員研修等において、県より社会教育主事の派遣を受けたことで、専門的な指導・助言による社会教育活動の取組を展開している。 ○大東図書館の現地での増改築整備や永井隆記念館図書室、掛合図書センター整備など、学習環境の充実を図った。 ○図書館業務の民間委託(株)キラキラ雲南)や、かも福祉会・NPO法人ふれんどによる図書の返却等のサービス提供に努めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○社会教育を通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりを推進する。 ○関係機関・団体等の連携・協力を進め、生涯学習に取り組みやすい環境の構築を図る。 ○誰もが活用しやすく、学びたくなるような生涯学習環境の機能充実を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅳ ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	キャリア教育政策課
	施策名	28.青少年健全育成の推進	施策統括課長	川西 泰恵
			関係課	地域振興課、くらし安全室、長寿障がい福祉課、保健医療政策課、健康推進課、こども政策課、こども家庭支援課、学校教育課、社会教育課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 青少年(就学後～30歳未満の市民)が社会でたくましく生き抜く力を身につける。	A 地域の子どもを育てようと活動している市民の割合(市民アンケート調査項目)	%	目標	25.0	25.0	26.0	26.0	27.0
			実績	26.2	26.1	25.6	25.2	
			目標	29.0	31.0	33.0	34.0	35.0
			実績	28.3	25.6	24.1	23.6	22.0
	B 地域や社会を良くするために自分にもできることがあると思う生徒の割合(中学3年生)	%	目標	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
			実績	75.2	73.8	86.7	86.1	
			目標					
			実績	-	-	73.3	74.1	82.9
	C 地域課題に対し、解決策を考え、実践したことがある生徒の割合(高校3年生)	%	目標	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績	93.5	86.6	80.7	未公表	
			目標					
			実績	50.0	68.8	70.8	64.6	74.0
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☒ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった

* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)

○成果指標Aは、ポイントは下がっているが、コロナ禍においても地域学校協働活動や地域自主組織の活動を通じ、多くの地域住民が子育てや教育活動に関わる機会や意識が維持されていると考える。
○成果指標Bは、R4.5と大きく伸びている。市内中学生を対象とした『夢』発見ボランティア事業の活動を通じて、自分の回りや社会への貢献意欲や達成感を感じる子どもたちが増えている成果と考えられる。
○成果指標Cは、目標値を大きく上回ることができた。コロナ禍において地域での活動が制限される中にもかかわらず、市内高校生が地域と関わりながら雲南式探求に積極的に取り組んでいることによるものと考えられる。

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)

○地域コーディネーターを中心に、学校と地域が連携・協力し、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を活用したふるさと教育の充実を図り、ふるさとに愛着や誇りを持つ心豊かな子どもを育てている。
○学校や園のPTA活動等を通じて親学プログラムに取り組み、保護者同士の交流につなげると共に、親としての役割・子どもとの関わり方について気づきを促す機会を提供している。
○地域の協力を得ながら放課後子ども教室を実施し、子どもたちに放課後の安心安全な居場所と学びや体験の機会を提供している。
○雲南市青少年育成協議会では、毎月第3日曜日を「うんなん家庭の日」とし、「家族が見つめ合うこと」や「地域でこどもを育てる」への理解が深まるよう、普及啓発に取り組んでいる。
○地域とともにある学校づくり推進事業を通じて、地域で交流・体験、学習活動に取り組むための地域優先予算を中学校区単位に配分し、地域の特色を生かした教育活動を推進している。
○『夢』発見ボランティアやスペシャルチャレンジプログラムを創設し、自主性・自立心を育み、様々な人との人間関係形成や社会性の向上に繋がる取組を展開している。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)

○学校・地域・家庭が目指すこども像を共有し、連携・協力して、こどもの健やかな育ちを支える体制の構築を図る。
○多様な団体と連携により、地域の教育資源を活用した学習機会を提供し、こどもたちのふるさとへの愛着・誇り・貢献意欲を育む。
○青少年の社会的自立を促すプログラムや支援の充実を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	人権推進室
			施策統括課長	熱田 賢二
	施策名	29.平和と人権の尊重	関係課	学校教育課,社会教育課,自治振興課,市民サポート課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

目的	①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
					目標	実績	目標	実績	目標
平和の意義を理解するとともに、人権を守り、お互いを尊重しあう。		A 自分自身が差別や人権侵害を受けたと感じる市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	10.0	10.0	9.5	9.5	9.0
				実績	12.0	11.8	11.9	11.6	
				目標	14.0	13.0	12.0	11.0	10.0
				実績	11.9	13.7	8.8	10.1	10.3
		B 他人の人権を侵害したと感じる市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
				実績	6.0	6.2	5.4	6.9	
				目標	4.5	4.3	4.0	3.8	3.5
				実績	4.8	5.1	4.0	4.3	4.6
		C 平和に関する活動に参加した市民の割合 〈市民アンケート調査項目〉	%	目標	15.0	15.0	16.0	16.0	17.0
				実績	10.1	9.7	10.9	12.2	
				目標	13.0	14.0	16.0	18.0	20.0
				実績	11.1	10.4	10.7	14.5	13.8
		D		目標					
				実績					
				目標					
				実績					
		E		目標					
				実績					
				目標					
				実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など) ○成果指標Aは、H27年度とR5年度を比較すると0.3ポイント減少しているが、近年は11%台で推移している。これは、コロナ禍における感染者・医療従事者等に対する誹謗中傷などが影響していると推測される。 ○成果指標Bは、H27年度と比較してR5年度には2.1ポイント増加した。コロナ禍の経験から市民の人権に対する感覚が少しずつ高まって来ており、無意識のうちに人を傷つけていることを自覚する人が多くなったと推測できる。 ○人権問題に対する認識は高まっているが、社会変化に伴って、複雑化、多様化し、未解決の人権課題が依然として存在しているとともに、SNS(インターネットや投稿サイト等)による人権侵害など、新たな人権課題が生起しているため、十分な成果を上げるまでには至っていない。 ○成果指標Cは、H27年度と比較し、R5年度で1.1ポイント向上したが、目標値には達していない。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○SNS(インターネットや投稿サイト等)におけるコメントや書き込みがより身近なものとなり、誰でも被害者や加害者になり得る社会となっている。 ○永井隆博士顕彰事業として「永井隆平和賞」を継続的に実施するとともに、『夢』発見プログラムによる平和と人権の取組により、永井隆博士の生き方を学ぶ学習が市内小中学校に浸透している。 ○地域の女性団体との連携により、世界の平和運動の先駆者として活躍された上代タノ先生の功績や生き方に学ぶ機会を提供している。 ○H28年度に「雲南市立学校における障がいと理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」を策定し、差別的な取り扱いが無く合理的配慮がなされるよう取組を実施している。 ○地域自主組織との連携による地域での研修会や出前講座を実施している。さらに、市内教職員、市職員等(市立病院や広域連合等の職員を含む)、企業等(雲南地域同和問題企業等連絡協議会(69社)を含む)の研修会の実施を実施している。 ○部落解放同盟島根県連合会雲南支部、全日本同和会島根県連合会雲南支部などと同和問題解決に向けた活動を継続的に行っている。 ○同和地区生活相談員を配置し、同和地区での相談体制を整えている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○学校、家庭、地域、職場において人権・同和問題についての教育・啓発を推進する。 ○『「平和を」の都市宣言』の精神に基づき、平和教育に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	社会教育課スポーツ文化振興室
	施策名	30.生涯スポーツの振興	施策統括課長	藤原 典裕
			関係課	長寿障がい福祉課,保健医療政策課,身体教育医学研究所,学校教育課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 生涯を通じて、スポーツや運動に親しみ、スポーツや運動を楽しみ、支える。	A 週1回以上(1回30分以上)スポーツや運動をしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	38.0	38.0	39.0	39.0	40.0
			実績	32.3	32.6	34.1	34.8	
			目標	41.0	42.0	43.0	44.0	46.0
			実績	36.6	38.2	37.8	33.8	36.0
	B 定期的にスポーツや運動を実施したり支えたりしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	18.0	18.0	19.0	19.0	20.0
			実績	17.1	14.1	15.5	17.3	
			目標					
			実績				16.5	18.2
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標A、Bともに、新型コロナウイルス感染症の影響でR2、R3年度の成果が低い状況となっているが、それ以後は回復傾向にある。各世代ごとに感染症の予防行動や感染状況に応じたスポーツ行動の差し控え等が行われたことが推測されることから、改めて、健康づくり、スポーツや運動の取組状況を分析する必要がある。スポーツに取り組む方は一定数あると考えるが、目標値には達していないため引き続き気運醸成の取組が必要となる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○東京2020オリンピック聖火リレーにスポーツ関係者を中心とした市民で取り組んだことで国民スポーツの気運醸成の一翼を担った。 ○東京2020パラリンピックの採火式にスペシャルオリンピックス日本・島根雲南アスリートとともに、雲南ミュージックスクールの皆さんと市が主催に取り組み素晴らしい採火式を開催した。また広島県で開催されたスペシャルオリンピックス全国大会等にもスタッフとして参加し大会への協力を行っている。 ○島根かみあり国スポ全スポに向けレスリング、ソフトボールで雲南市長杯を開催し選手、役員育成と気運醸成を行った。 ○R7全国高校総体(レスリング競技競技)を開催に向けた取組を行っている。 ○チャレンジデーや市内6町の運動施設を活用した運動教室などの実施により、スポーツの習慣化及び地域交流を推進している。なお、チャレンジデーは2023をもって全国的に終了し、新たなスポーツ施策の検討を笹川財団も含め行っている。 ○身体医学研究所うんなんとの協働で、出前講座「みんなで考える地域共生スポーツ」ユニバーサルスポーツ(ボッチャなど)の体験を通じて、誰もがスポーツに取り組める環境づくりや「心のバリアフリー」の大切さを学ぶ機会を創出に取り組んでいる。 ○小中学校やスポーツ少年団ヘトッパアスリートを派遣する取組や、スポーツ協会等の活動支援など、スポーツの普及・振興を図っている。 ○身体教育医学研究所うんなんにおいて、市民の運動(歩行・体操)の習慣化を図るため、市内全域で取組を推進している。 ○計画的なスポーツ設備の更新を行うとともに、適切な管理に努めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○年齢や性別、障がいの有無等を問わず、市民が生涯においてスポーツや運動に主体的に関わることのできる環境づくりを推進する。 ○全国高校総体、国スポ・全スポ等の競技スポーツをする人・みる人・ささえる人を支援することでスポーツに対する市民の気運をより高める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	文化財課
	施策名	31.地域文化の振興	施策統括課長	角田 徳幸
			関係課	観光振興課、スポーツ文化振興室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 地域文化を正しく理解し、文化財の保護と活用に努めるとともに、文化芸術に親しみ創造する。	A 歴史や文化を次世代に伝える活動をしている市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
			実績	10.1	9.8	10.5	11.0	
			目標	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
			実績	9.9	11.6	11.4	11.0	13.1
	B 文化芸術に親しんでいる市民の割合 (市民アンケート調査項目)	%	目標	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0
			実績	38.9	40.7	42.6	40.9	
			目標	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0
			実績	41.0	45.9	43.0	44.6	42.4
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、毎年約10%の水準を維持しており、地域の保存会を中心とした民俗芸能(神楽・獅子舞等)や年中行事(とんど祭り等)が伝統的に保存継承されているとともに、文化財の保護・活用が適切に行われていると考えられる。 ○成果指標Bは、毎年40%を超える水準を維持しており、市内の文化施設を拠点として活動している団体等の支援や指定管理者との連携による自主文化事業の実施等の取組により、市民が文化芸術に親しむ機会を提供できたと考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○菅谷たたら山内保存修理事業のうち建物については、R4年度に完了。R5年度から防災事業、R6年度からは石垣の保存修理事業に着手している。 ○菅谷たたら山内の文化財的価値の保全に努めている(「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」がH28.4.25付けで文化庁により日本遺産認定)。 ○菅谷たたら山内活用事業により公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団の活動支援をするとともに、調査研究を行っている。 ○出前講座・歴史文化講座を開催するなど、市民の歴史文化に対する関心を喚起するための取組を行っている。 ○特別天然記念物コウノトリの保護に努めるとともに、市民への普及・啓発活動に取り組んでいる。 ○加茂岩倉遺跡ガイダンスは、周辺の博物館との連携事業の実施により、弥生時代の青銅器文化について広く発信している。 ○出雲神楽のタベ、神楽フェスティバル、出雲追分全国優勝大会などの実施に係る支援を行い、保存団体の育成を図った。 ○市内の文化施設を拠点として活動している様々な団体の支援を行っている。 ○市文化協会の活動を支援し、市民の文化芸術活動に親しむ機会や活動発表の場の提供を行っている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○歴史遺産の調査研究を進め、価値づけができたものを指定文化財として保存・整備し、活用を進める。 ○地域の歴史文化について歴史文化講座・ふるさと文庫などを通じて発信し、市民の関心を喚起する。 ○菅谷たたら山内を中心とするたたら文化について広く発信し、市内外の歴史ファンの関心を高める。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	商工振興課
			施策統括課長	落部 大
	施策名	32.起業・就業支援の充実	関係課	政策推進課、うんなん暮らし推進課、人権推進室

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				目標	実績	目標	実績	目標
目的 A)市内で起業できる B)市内で就労できる C)市内で働き続ける	A 起業数	件	目標	20	20	20	20	20
			実績	22	24	28	26	
			目標					
			実績	28	23	18	18	17
	B 新規高卒就職希望者(市内3校)の市内への就職率	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績	40.0	45.2	46.9	38.9	
			目標					
			実績	40.9	46.2	47.3	42.6	50.0
	C 新規求職申込後、就労した者のうち雲南圏域への就職率	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
			実績	61.3	61.6	57.3	63.5	
			目標					
			実績	60.2	57.8	60.2	63.1	66.8
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☒ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、目標値を上回る数で推移している。移住等により起業をする方が増えていることが要因と思われる。 ○成果指標Bは、目標値前後を推移していたが、R5年度は減少した。 ○成果指標Cは、目標値前後を推移しており、R5年度は向上している。地元就職の意向が強いと思われる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○雲南雇用対策協議会において、ハローワーク雲南と連携し、管内企業の視察や企業情報の提供などの支援に努めている。 ○雲南雇用対策協議会において、新規高卒者の就職内定者研修、新入社員研修(春・秋2回)等を行っている。 ○雲南市無料職業紹介所では、求職者に対して求人の情報提供や斡旋等を行っている。 ○うんなん暮らし推進課やふるさと島根定住財団と連携し、Uターン者に対し、職業紹介や入社支度金制度による支援を行った。 ○「高校卒業生とのつながり創出事業」を活用し、高校卒業年次の生徒に対してLINE登録を促すとともに、市内で活躍し、新しい生き方・働き方をしているロールモデルを掲載した情報誌を配布するなど、地元とのつながりを持ち続ける取組を行った。 ○人材確保の手段の一つとして、経営者を対象に人材育成・人材定着に関するセミナーを開催した。 ○事業創出ラボ「SHIFT」を開催し、起業、新事業展開の機運を促進した。 ○起業や第2創業に向けた個別相談・セミナー等を行った。 ○企業の業況や雇用状況を把握するためアンケートを実施した。 ○業務改善や子育てしやすい環境づくり、働き方改革の推進等の啓発にかかるポスター掲示、チラシ配布などを行った。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○人口の社会増に向け、若者やUターン者に向けた起業・就業支援を強化する。 ○求人・求職者のマッチングを推進する。 ○「働き方改革」の推進に向け、働きやすい環境づくりの啓発に取り組む。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	商工振興課
			施策統括課長	落部 大
	施策名	33.地域資源を活かした産業の創出	関係課	農業総務課、観光振興課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				目標	実績	目標	実績	目標
目的 新分野進出、新商品開発をする。	A 農商工連携プロジェクトならびに市の補助金活用によって生み出された商品数	個	目標	13	13	13	13	13
			実績	7	7	8	9	
			目標					
			実績	10	15	11	16	17
	B 農商工連携協議会会員	事業者	目標	75	75	75	75	75
			実績	75	75	75	75	
			目標	74	74	74	74	74
			実績	73	74	75	75	75
	C 国・県の6次産業化事業の採択件数	件	目標	2	2	2	2	2
			実績	0	1	1	0	
			目標					
			実績	2	3	0	2	2
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、コロナ禍の影響もあり減少しているが、毎年着実に新商品が生み出されている。 ○成果指標Bは、目標値の75事業所を維持している。 ○成果指標Cは、R5年度から「しまね中核的食品製造企業育成事業」に移行したが、実績は0件であった。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○農商工連携協議会による地域資源を活用した5つ(スパイス・スイーツの杜・たまご・さくら・山の幸)のプロジェクトについては、コロナ禍の影響により活動が小規模にとどまった。 ○商品開発に関する市独自の補助金制度を活用した取組により、R2年度～R5年度において31個の新商品が開発された。 ○しまね産業振興財団のアドバイザー事業や市の専門家派遣制度を活用し、商品開発に対する助言等を受けた。 ○商品の販路拡大に向け、商品力強化相談会・セミナー等の開催により、ふるさと納税返礼品の充実・魅力化を図った。 ○事業創出ラボ「SHIFT」を開催し、起業、新事業展開の機運を促進した。 ○ギフト商品に関するセミナーの開催や展示会への出展支援など、地域資源を活かしたプレミアムカタログの作成に寄与した。 ○起業型地域おこし協力隊と連携し、市内産品の販路拡大に向けた地域商社の取組を行った。 ○よい仕事おこしネットワーク(事務局:城南信用金庫)との包括的連携協定を締結し、市内産品の販路拡大を行った。 ○地域資源を活かした商品開発を図るため、新商品開発補助金の見直しを行った。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○地域資源を活かした産品開発と販路拡大に取り組む。 ○地産地商による地域内経済循環の推進を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	Ⅳ ふるさとを学び育つまち《教育・文化》	施策主管課	農業畜産課
			施策統括課長	小林 洋治
	施策名	34.農業の振興	関係課	農地整備課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				目標	実績	目標	実績	目標
目的 安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	A 市内の農業所得総額(法人除く)	億円	目標	▲ 5.0	▲ 4.8	▲ 4.6	▲ 4.4	▲ 4.2
			実績	▲ 6.3	▲ 7.2	▲ 6.8	▲ 6.9	
			目標	▲ 2.6	▲ 2.4	▲ 2.2	▲ 2.0	▲ 1.8
			実績	▲ 5.2	▲ 3.4	▲ 3.4	▲ 5.4	▲ 5.7
	B JALまね販売額(雲南市内)	億円	目標	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0
			実績	20.0	17.8	16.1	17.5	
			目標	26.0	26.0	26.0	26.0	23.0
			実績	23.2	21.0	23.8	23.2	22.4
	C 雲南市の農業産出額(推計)	億円	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績	37.9	36.1	39.3	未公表	
			目標					
			実績	48.1	52.7	50.8	50.7	38.7
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少幅が拡大し、その後、ほぼ横ばいで推移した。 ○成果指標Bは、コロナ禍において販売額が減少したが、R5年において回復傾向となっている。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○県営事業や団体営事業による圃場、農道及び水路等の基盤を整備するとともに、日本型直接支払制度等を推進し農地保全を図った。 ○雲南市担い手育成支援室(ワンストップ窓口)を中心に関係機関が連携し、集落営農組織等や新規就農者へ支援を行い、R2年度以降新規の農事組合法人が1法人(R6年3月末現在 集落営農農業法人:30法人)、さらに新規就農者が9名誕生した。 ○農地利用最適化推進委員の配置等の取組を行い、農地集積や遊休農地の発生防止を図った。 ○市内産米の評価等を高めるため、H28年度より新たなブランド米「プレミアムつや姫たたら焰米」の取組を開始し、R5年度には栽培面積を84.2haまで拡大した。 ○農産物の産直販売に引き続き取り組み、産直会員数(R2年度1,384人→R5年度1,334人)は減少したが、市内産直市場販売額(R2年度約275百万円→R5年度 約276百万円)は微増した。 ○雲南市猟友会による有害鳥獣駆除班を編成し、有害鳥獣の駆除(R5:総数2,504頭[内イノシシ2,119頭])を行った。加えて、電気牧柵やワイヤーメッシュの設置補助を行い、農作物の被害防除に努めた。 ○畜産農家の高齢化や後継者不足に加え、高止まりする飼料価格等に起因する経営圧迫により農家数は減少(繁殖和牛農家R2:84戸→R5:64戸)し、飼養頭数も減少した(繁殖雌牛 R2年度504頭→R5年度423頭)。 ○県内和牛市場の特徴を出すため、県有種雄牛の指定交配を条件とする保留・導入事業を継続実施した。加えて、全国共進会に向け、受精卵移植事業等の取組を推進した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○圃場、農道及び水路等の農業基盤の整備や農地保全を推進する。 ○農業・畜産の担い手育成とともに、組織化や農地集積による持続可能な農業経営の推進を図る。 ○安全・安心な農畜産物の生産とスマート農業を推進する。 ○農畜産物の地産地消や市外への販路拡大を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合 計画 体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	林業振興課
			施策統括課長	内田 俊行
	施策名	35.林業の振興	関係課	農地整備課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				目標	実績	目標	実績	目標
目的 適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する	A 森林組合の木材生産量	m ³	目標	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000
			実績	6,233	5,908	9,123	12,659	
			目標	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000
			実績	12,970	15,089	12,599	11,750	13,784
	B 森林組合の施業面積(間伐)	ha	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績	13.3	81.6	89.2	57.4	
			目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績	176.5	60.7	101.7	70.7	22.6
	C 森林組合の施業面積(新植)	ha	目標	20.0	30.0	40.0	50.0	60.0
			実績	10.5	14.2	36.3	20.9	
			目標	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
			実績	9.5	27.4	15.9	18.8	18.0
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、コロナ禍の影響を受けR3年度5,908m³まで落ち込んだがコロナ禍前の水準まで戻っており、旺盛な需要量に対し今後も木材生産量は増加するものと考えられる。 ○成果指標Bは、高齢級人工林が増加し森林組合等の施業が間伐から主伐への転換期に来ているため、間伐実施面積の減少に繋がったものと考えられる。 ○成果指標Cは、間伐から主伐への転換期を迎え主伐による原木生産は増加しているが、山元に対する利益還元の低迷と森林所有者の再造林意欲の低下が新植面積の伸び悩みに繋がっていると考えられる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○R4年度末に雲南市林業振興ビジョンを策定し、数値目標を示すとともに森林環境譲与税を最大限活用し各施策の展開を図っている。 ○森林GISやレーザ計測データの活用を支援し、集約化施業や森林所有者との合意形成、労務負担軽減等に加え、企業との連携も進めJ-クレジットの推進、林業・林政DX、広葉樹流通等の取組を進めている。 ○林業の担い手の確保・定着に向け、林業事業者への支援に加え、新たな技術取得研修や地域おこし協力隊による商品開発、販路拡大を進め市産木材の高付加価値化を推進している。 ○2か所の木材流通拠点施設を核にプラットフォームを活用した市産材流通を促進し、林業事業者の木材増産とヤチップ用原木の安定確保を図っている。 ○森林組合等との連携のもと、公有林整備事業や公社造林事業などに取り組み、森林の適正な管理を行っている。 ○林道管理に加え林業専用道や森林作業道等の路網整備に努めている。 ○市民参加型収集運搬システム(登録者:R5年度末時点481名)や市内6施設への木質チップボイラーの導入により、森林資源を活用したエネルギーの地域内循環を進めている。 ○木材利用促進事業(補助金)を継続し、市産材の活用に努めている。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○森林所有者アンケートの解析を進めるとともに、森林経営管理制度にも取り組み、団地化・集約化による施業の効率化を図り森林整備を進める。 ○林業事業者や企業との連携を深め、J-クレジットの推進、林業・林政のDX化、広葉樹等新たな販路拡大など、山元へ利益が還元され森林が循環する林業を目指す。 ○上記課題に対し、森林環境譲与税等の有利な財源を最大限活用し事業進捗を図る。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 6 年 11 月 20 日

総合計画 体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	観光振興課
	施策名	36.観光の振興	施策統括課長	高橋 司
			関係課	政策推進課,産業施設課,観光施設再生活用推進室,広域観光・インバウンド推進室,文化財課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的 A)市内で観光を楽しんでもらい、消費してもらう。 B)観光情報を発信する。	A 観光入込客数 (※当初、H31の目標値を130万人としていたが、清嵐荘の整備等を見据え、150万人に上方修正している。)	万人	目標	136.0	136.0	137.0	137.5	138.0
			実績	98.6	93.3	99.9	107.3	
			目標	130.0	148.0	148.0	148.0	150.0
			実績	148.3	153.0	138.9	142.7	145.7
	B 観光消費額	百万円	目標	3,500	3,500	3,600	3,700	3,800
			実績	2,006	1,872	2,127	2,375	
			目標	4,300	4,300	4,300	4,300	4,300
			実績	4,023	4,164	3,739	3,212	3,555
	C		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	D		目標					
			実績					
			目標					
			実績					
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☐ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☒ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
*背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aは、前期、イベント等により観光入込客数の大幅増につながるなど目標値を上回る年度もあった。国民宿舎清嵐荘の休業、H30年の豪雨災害、道の駅「たたらば壺番地」の利用者数の減少が見られた。R2年当初から新型コロナウイルス感染症拡大で渡航制限や移動自粛による観光需要に大きく影響し、入込客数が減少した。 ○成果指標Bは、観光入込客数に比例し、減少傾向とコロナ禍の影響が見られる。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○コロナ禍において「プレミアム付うなん観光券」の販売などの宿泊・消費喚起事業やイベントが開催自粛される中、山陽方面に向けてメディアによる情報発信に取り組んだ。 ○R3年度から5年間の第2期観光振興計画を策定し、コロナウイルス感染症の影響を踏まえた観光振興策を推進した。また、「道の駅活性化ビジョン」を策定して「道の駅さくらの里きすき」の駐車場整備等の事業に着手した。 ○宿泊観光の受け皿として、国民宿舎清嵐荘の改築整備に取り組みR元年11月に開業した。中心市街地活性化協議会と連携し、ビジネスホテルの早期着手に向けて取り組み、コロナ禍を経てR6年4月に着工となった。 ○雲南市観光協会をH27年に一般社団法人化し、観光ガイドの育成、観光情報の発信、体験プログラム等の商品化など市内全体の観光プロモーションの強化を図った。事務所や観光案内所の設置、英語対応ができる案内所の専属職員の配置など体制強化に取り組んだ。 ○JR西日本による豪華寝台列車トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り観光を誘致した。木次線利活用推進協議会観光誘客プロジェクトチームを立ち上げ、既存列車のラッピングや木次線沿線の周遊観光、観光列車「あめつち」の木次線乗り入れに向けた準備やPR活動を行った。 ○台湾との既存のつながりを活かし、彰化縣二林鎮との友好協力確認書の締結や木次線沿線の連携やたたらなどのテーマに沿った広域観光を積極的に推進した。同時に、台湾旅行会社への観光宣伝や海外メディア主催のコンテストに参加し、世界に向けて積極的な情報発信を行った。 ○鉄の道文化圏推進協議会での取組を進め「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」が日本遺産認定された。たたら文化に関するシビックプライドを醸成し、情報発信を進めるため、たたら伝道師制度を活用した「たたら文化伝道師検定」の制度を開始した。“和銅生産たたら体験交流施設”の寄付を受け、たたら体験観光を推進に向け指定管理者による運営を開始した。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○国内外に向け効果的な情報発信を進める。 ○外国人観光客の受け入れ体制を強化し、関係機関との連携により魅力ある観光メニューの充実を図る。 ○観光地の認知度を高めるとともに、地域資源を活かした観光商品の充実を図る。 ○観光客への温かいおもてなしの心の醸成を図る。 ○観光施設の老朽対策を計画的に推進する。

施策マネジメントシート1<第2次雲南市総合計画 振り返り>

作成日 令和 6 年 6 月 21 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策名	V 挑戦し活力を産みだすまち《産業》	施策主管課	商工振興課
			施策統括課長	落部 大
	施策名	37.商工業の振興	関係課	農業総務課,建設工務課,都市計画課,営業課,工務課,下水道課

1. 施策の目的と指標(実績・見込値及び目標値)

①意図(どのような状態にするのか)	②成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
目的	A 製造品出荷額 ※工業統計調査	億円	目標	1,120	1,140	1,160	1,180	1,200
			実績	未実施	901	911	1,012	
			目標	900	900	900	900	900
			実績	927	965	1,069	1,107	1,032
	B 製造業従事者数 ※工業統計調査	人	目標	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400
			実績	未実施	3,348	3,243	3,239	
			目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
			実績	未実施	3,492	3,343	3,318	3,409
	C 卸売業・小売業年間販売額 ※経済センサス活動調査	百万円	目標	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000
			実績	42,918(H28)	38,185	38,185(R3)	38,185(R3)	
			目標	37,000	37,000	42,918	42,918	42,918
			実績	37,431(H23)	42,918	42,918(H28)	42,918(H28)	42,918(H28)
	D 地元購買率 (市民アンケート調査項目)	%	目標	87.0	87.0	87.0	88.0	88.0
			実績	90.8	83.8	85.8	87.3	
			目標	87.0	87.0	87.0	88.0	88.0
			実績	80.4	82.5	86.3	86.4	89.7
	E		目標					
			実績					
			目標					
			実績					

2. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

①時系列比較(第2次総合計画期間内の比較)	②目標達成度
☐ 成果がかなり向上した。 ☐ 成果がどちらかといえば向上した。 ☒ 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかといえば低下した。 ☐ 成果がかなり低下した。	☐ 目標値より高い実績値だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☒ 目標値より低い実績値だった
* 背景・要因(根拠となる実績値、判断理由など)	
○成果指標Aについては、コロナ禍の影響により減少したが、R3年度から増加しており、景気の回復傾向が見られる。 ○成果指標Bについては、減少傾向が見られ、製造事業所の減少による影響が大きいと考えられる。 ○成果指標Cについては、5年前の経済センサス活動調査結果と比較し、約47億円減少している。H27年度との比較では上昇している。 ○成果指標Dについては、目標値前後の高い水準を推移している。	

3. 施策の振り返り総括

振り返り総括(これまでの取り組みの総括、当市の特徴とその要因として考えられること等)
○積極的な企業誘致活動により、合併以来、新規企業立地15社が実現し、新たに242名の雇用が創出された。また、投資固定資本総額は約38億円が見込まれている(企業立地計画数値)。 ○合併以降、新規企業立地15社を含む59件(新規雇用創出861名)の企業立地計画認定を行い、これによる投資固定資本総額は、約355億円が見込まれている。 ○産業集積拠点形成アクションプランに基づく神原企業団地整備事業に着手し、約2.7haの企業団地を整備した。 ○南加茂企業団地との一体的な整備に向けたアクセス道路の整備に取り組んだ。 ○若者や女性に人気のある事務系職場誘致を進め、3社が新たに立地した。 ○雲南市企業間交流会(市内製造業40社が加入)を開催し、研修会や情報交換等を通じて企業間連携を促進している。 ○消費喚起事業など、新型コロナウイルス感染症対策や物価高騰対策のための支援策を講じた。 ○地域経済振興会議を開催し、中小企業の振興等、地域経済の課題解決に向けた検討を行っている。 ○中心市街地活性化計画におけるビジネスホテル建設について、R6.5月に着工されている(R7年夏頃のオープン予定)。 ○商業者の資金繰り対策として融資等に対する保証料の補助を行い、経営の安定に向けた支援を行っている。 ○商工会が実施するスタンブリー事業やプレミアムカタログ事業への補助を行い、地域経済の活性化、市内消費の喚起に努めている。 ○小売店等持続化支援(店舗改装・家賃助成等)、移動販売支援などの助成事業を行い、買い物支援や商業活性化に取り組んでいる。 ○事業承継専門員による訪問活動や関係機関との連携による個別相談・セミナーの開催に取り組んでいる。

4. 第3次総合計画において注力すべき主な課題

施策の基本方針(案)
○市内企業の人手不足の解消に向け、若い世代やUターン者に目を向けた人材の確保に取り組む。 ○企業団地の計画的な整備や事務系職場の誘致により、雇用の拡大を図る。 ○商工会との連携により、中心市街地をはじめとする地元購買の促進を図る。 ○地域商業の活性化に向け、経営支援の強化や事業承継の支援に取り組む。